

九州観光推進機構の
活動状況
(2011 年度)

2012 年 3 月
九州観光推進機構

目 次

戦略Ⅰ	九州の魅力を磨きブランド化する戦略・・・・・・・・・・・・・・・・	2
戦略Ⅱ	国内大都市圏などからの誘客戦略・・・・・・・・・・・・・・・・	9
戦略Ⅲ	海外からの誘客戦略・・・・・・・・・・・・・・・・	20

戦略 I 九州の魅力を磨きブランド化する戦略

(1) 観光人材の育成・活用

○ 2011年度「九州各県観光ボランティアガイド連絡協議会代表者会議」を開催

(11月18日:福岡市)

九州各県の観光ボランティアガイド団体間の情報交換・交流拡大、広域連携を目的として、機構主催による「九州各県観光ボランティアガイド連絡協議会代表者会議」を開催しました。

今回の会議は、各県内のガイド団体の連携強化等で重要な役割を担う九州7県の観光ボランティアガイド連絡協議会の代表者及び九州各県の観光ボランティアガイド関係担当者が集まり、機構から2012年2月、大分県で開催する「第5回九州観光ボランティアガイド大会 in おおいた」、地域活性化総合特別区域「九州観光“おもてなしの輪”創造特区」の指定申請の説明、同連絡協議会の活動等についての意見交換を行いました。

同連絡協議会の代表者からは、外国人に九州観光案内を行うガイド不足に対応した特区ガイドの各県への紹介、活用等のアドバイスの要望や、外国語ができるガイドの募集は報酬面等から容易ではないため特区ガイドに期待する意見が寄せられました。今後も、代表者会議を年1回開催し、九州7県観光ボランティアガイド活動の情報共有とともに、九州が一体となってガイドのあり方を考えていくことにしています。



○ 「まちあるき観光セミナー」を開催 (12月1日~2日:鹿児島県さつま町)

国土交通省九州運輸局との共催により、着地型観光の普及と着地型旅行商品づくりの啓発を目的とする「まちあるき観光セミナー ~ぶらりさつま体験ツーリズム~」を開催し、28名が参加しました。

セミナーでは、まち歩き達人・東川隆太郎氏(まちづくり地域フォーラムかごしま探検隊代表[鹿児島市])の案内によるさつま町内まち歩き体験、民泊・教育旅行の第一人者・下津公一郎氏(エコ・リンク・アソシエーション代表[南さつま市])、食を通じた町おこしで知られる本田節氏(ひまわり亭代表[人吉市])による着地型観光の講義を行い、その魅力や、おもてなしの必要性について学習しました。また、農家民泊を体験し農家の皆さんとの交流を通して「おもてなし」の心を深めてもらいました。

参加者からは、「“ぶらり”訪れたさつま町内での体験、学習、交流は、今後のまちづくりを考えるよい機会となった」とのご意見をいただきました。



○ 九州産業大学で機構職員が講義 (4月~8月)

九州産業大学は、2010年度から九州の観光資源、観光産業、観光地の現状・魅力等について、観光行政や実務に携わっている専門家による特別講義を開設しており、大学からの依頼に基づき、毎年、当機構職員が講義を行っているものです。今年度は商学部観光産業学科の約30名の学生に九州観光の魅力や各県の観光等について、全15回のうち9回の講義を行いました。



講義は、実務の体験談やリアルタイムな観光情勢の動き等を織り交ぜた内容で行い、受講生は、通常講義とは違う実務経験者の生の声が聞けるため、真剣な眼差しで聞き入っていました。

全講義終了後、学生から提出されたレポートには、「地元九州の観光地の魅力を改めて認識した」「大学教員の講義と違った新鮮さを感じた」などの記載があるなど、受講生の九州観光への理解促進等で効果がみられることから、今後も、このような講義を通じて、将来の観光産業を担う人材の育成に取り組んでいくことにしています。

○ 日本観光「第4回研究論文発表会」に参加（12月10日：福岡市）

日本観光研究学会九州・韓国南部支部主催、当機構及び九州運輸局後援による「第4回研究論文発表会」が九州産業大学において開催され、応募論文12件が2会場に分かれて発表されました。当機構からは、高橋事業副本部長が審査員として参加し「九州観光推進機構会長賞」を授与しました。九州観光推進機構会長賞には、福岡女学院大学の「被災地の観光地化－新しい可能性ジオパークー」「宇宙観光の可能性」の2件が選ばれました。



なお、九州運輸局長賞には、大分大学の「東日本大震災が大分県内在住者の観光に及ぼした影響について」、福岡女学院大学の「城は地域を救うか」、日本観光学会会長賞は、九州産業大学「Wi-Fiを使った観光情報のあり方」、長崎国際大学の「メディカルツーリズムの現状と将来像」が選ばれました。

○ 「おもてなしフォーラム2012 in 九州」を開催（1月26日：福岡市）

当機構の主催（後援：九州運輸局・九州各県・九州経済連合会）により、「おもてなし」の重要性について理解を深めていただく「おもてなしフォーラム2012 in 九州」を開催しました。会場は観光業の経営・管理・接客等に携わる約250名の方々に満席となりました。



基調講演では、九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長 石原進氏から「JR九州のサービス改善の取り組み」のテーマに、同社が2003年から実施している「新・感・動・作戦」等の取り組みについて、具体例を挙げてご講演いただきました。

その後、4つの分科会を開催し、参加者は希望する分科会において、おもてなしの視点に立った「マネジメント」「コーチング」「対話」「接客」等について学習しました。

参加者からは、「大変参考になった」「お客様と接する際に役立てたい」「職場でみんなに伝えて共有したい」などの数多くの貴重なご意見をいただきました。

○ 「第5回九州観光ボランティアガイド大会 in おおいた」を開催（2月9日～10日：大分）

九州の観光ボランティアガイドのレベルアップと広域連携の促進などを目的に、「第5回九州観光ボランティアガイド大会 in おおいた ～きちょくれ 大分！～」を九州各県、各県観光連盟、社団法人日本観光振興協会九州支部、当機構で構成する「九州観光ボランティアガイド大会実行委員会」の主催により開催しました。大会には大分県知事広瀬勝貞氏、国土交通省九州運輸局長玉木良知氏、別府市長浜田博氏の



ご臨席のもと、九州の観光ボランティアガイド関係団体から過去最多の99団体、約475名（実行委員会関係者を含む）の参加があり、九州各県の観光ボランティアガイド連絡協議会の会長、代表世話人の皆様が出席されました。

今回は、別府市内の会場において、赤崎まき子氏（株式会社エイ・ワークス代表取締役）による『人を呼び込む“産業観光”』をテーマとする基調講演、4つの分科会での討議・報告、九州4県（佐賀、宮崎、大分、長崎県の順）の観光ボランティアガイド活動の事例発表を行い、「九州各地のガイド団体の後継者育成等の取り組みは大変参考になった」との意見が多く寄せられました。

閉会式後は、208名の方が現地ガイドの案内により大分県内（竹田市、臼杵市他）のまち歩きを体験し、県内の歴史、文化等大分の魅力を満喫しました。

なお、参加者アンケートでは、回答者の96%の方が「今回大会は参考になった」と評価されました。次回大会は佐賀県で開催します。

○「第4回産学連携オープンセミナー in 福岡」を開催（2月27日：福岡市）

日本観光振興協会の主催で「第4回産学連携オープンセミナーin福岡」が当機構との連携により開催し、182名の学生及び社会人の参加がありました。

今回のセミナーは、JR九州高速船株式会社代表取締役社長の町孝氏による「平成の開国～九州観光立圏を目指して～」をテーマとする基調講演、「学生による観光振興に関する研究」の募集で優秀な成績を修めた研究の発表と表彰式、「九州のこれからの観光を考える～九州訪日外国人100万人時代へ～」をテーマとして大学教授及び企業代表者計5名によるパネルディスカッションを行いました。



パネリストからは、「九州は更に観光資源を磨き九州が一丸となって九州観光立圏を目指すことが必要」「アジアは高度成長の中にあり、私たちは先ずアジアに行って知ることが大切」との意見などがあり、今後の取り組みの参考になりました。

（2）観光インフラ等の整備

○「九州観光案内所」の整備支援を検討

観光客の受入体制整備を目的とする「九州観光案内所」整備支援について、九州の主な観光案内所のサービス、案内方法等の運営実態のヒアリング（訪問調査）を行い、それに基づく機構の整備支援案について検討を行いました。

○「福岡空港国際観光案内所」の整備で支援

外国人観光客への九州観光情報提供の拠点づくりを目的とする「福岡空港国際観光案内所」の整備について、案内所運営時間の延長等の観光案内充実で支援しました。

(3) 魅力ある観光地の形成

○ 2011年度「九州さるく」を実施 (9月)

九州では、2011年1月現在、301の観光ボランティアガイド団体（日本観光振興協会調査）があり、当機構は、このようなガイド団体の活動の場を増やすとともに、ガイドツアーを通じて地域資源の再認知・再発掘に努め地域の魅力を高めることなどを目的として、九州の観光ボランティアガイドによる、まち歩き定時ツアー「九州さるく」を実施しています。

2010年度では、約15万9千人（前年度比6万3千人増）のお客様がこのまち歩き定時ツアーを利用されており、2011年度は、今年7月～8月にかけて募集を行い、昨年度より6団体増の75団体が参加して実施しています（9月30日にニュースリリース）。詳細は当機構HPサイト「九州さるく」及び携帯サイトをご覧ください。

<http://www.welcomekyushu.jp/saruku/>



(4) 観光振興のための環境整備

○ 「地域放送コンテンツ海外展開実証実験」TVQ九州放送 最優秀賞を受賞 (4月26日:東京)

「地域放送コンテンツ海外展開実証実験」は、総務省が①疲弊している地域コンテンツ製作力の再生・強化、②観光客誘致、地域の物産販売の促進による地域経済の活性化を目的に、昨年8月から全国を11ブロックに分けて、各地域協議会（九州は九州観光推進機構）を通して、地域の放送事業者・製作会社にコンテンツ（1本30分以上のCMを含む番組）を製作委託したものであり、海外放送向けに43本が製作されました。

各コンテンツは、2010年12月～2011年3月にかけて、中国、韓国、台湾、香港の東アジア地域を中心に海外の番組で放映され、内容理解、視聴後の訪日意向等で概ね良好な評価が得られました。放映終了後、「各国のニーズにあったテーマ設定」「ナレーションや説明方法」「シーン展開やテンポ」等の視点から海外放送に精通されたメンバーで構成する審査委員会（委員長：上智大学の確井教授）で審査が行われ、TVQ（ティー・ヴィー・キュー）九州放送が制作した「孫文を助けた九州人たち」が最優秀賞を受賞しました。その他、優秀賞には信越、四国、奨励賞は近畿、沖縄のコンテンツが選ばれました。このたびの実証実験の結果については、今後の海外放送のコンテンツ製作に生かされる予定です。



○ 第2回「九州マスコミ会議」で会長講演 (5月11日:福岡市)

「観光でつなぐ九州とアジア」をテーマに、九州と中国、韓国、台湾のマスコミや観光関係者が意見交換を行うため、第2回「九州マスコミ会議」（主催：九州情報リエゾン、後援：九州観光推進機構）が開催されました。今回の会議は、石原会長による基調講演、パネルディスカッションを行い、マスコミ39社を含む約150人の参加で会場が満席となるなど、関心の高さが窺われました。



基調講演では、東日本大震災の影響で外国人観光客が激減していることを踏まえ、「海外からのマスコミ招請や、アジア各国への訪問により、九州は安全であるとの情報発信に力を入れている」ことが報告されました。

一方、外国人記者からは、会議に先立ち実施された鹿児島県、熊本県のモニターツアーに参加した感想として、「帰国後は、震災の被害を受けていない九州の実情についてアジアの人々に積極的に報道したい」との考えが示されました。

今後、あらゆる機会を通じて「九州は安心・安全である」ことを発信していきます。

○ 「2011年度定時総会」等を開催（5月19日、25日：福岡市）

九州観光推進機構の「2011年度定時総会」を、県・企業・団体等の会員等81名のご出席のもとで開催しました。総会は国土交通省九州運輸局長の玉木良知氏に来賓としてご挨拶をいただいた後、機構事務局から以下の議案について説明を行い、原案どおり承認されました。

- ＜議案＞
- ・ 2010年度事業報告、2010年度収支決算
 - ・ 2011年度事業計画、2011年度収支予算
 - ・ 「九州観光推進機構規約」の改正について
 - ・ 役員を選任について



2011年度定時総会

2011年度の取り組みでは、国内では観光を担う人材育成支援、外国人観光客の受入体制の整備支援をはじめ、2011年3月の九州新幹線鹿児島ルート全線開業を踏まえた近畿、中国地方へのプロモーション活動の展開、大都市圏の中学校・高校の修学旅行誘致活動の強化、海外では東日本大震災による訪日客の激減に伴うアジア各国のメディア招請、九州の安全・安心情報の発信、韓国・中国・台湾の市場特性に応じたプロモーションの展開等を行うことにしています。



2011年度第1回理事会

なお、役員を選任は、任期2011年5月～2013年5月として、石原会長（九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長）の再任をはじめ役員が改めて選出されました。

また、定時総会に先立って開催しました2011年度「第1回評議員会」（5月19日）、「第1回理事会」（5月25日）では、2011年度定時総会の議案等の審議とともに、二次交通の充実促進を目的とする「なないろ九州バス」の2011年度下期運行について意見交換が行われ、運行の詳細については引き続き検討していくことになりました。

○ 大阪府議会府民文化常任委員会が当機構を視察（8月29日：福岡市）

大阪府議会の府民文化常任委員会（委員長：土井 達也氏）13名が当機構の取り組みを調査するため、機構を視察しました。委員会メンバーには、大江事業本部長から当機構設立の経緯、国内修学旅行・インバウンドなどの至近の九州観光の動向、「第三次九州観光戦略」に基づく事業などについて説明を行いました。

大阪府議会府民文化常任委員会からは、関西方面から九州への修学旅行の大幅増、九州各県の豊富な観光資源に大きな関心が寄せられるとともに、機構から九



州新幹線鹿児島ルート全線開業を生かした、九州と大阪方面の一層の観光交流促進への力添えを要望しました。

○ 「地域活性化総合特別区域」指定を申請（9月27日）

「総合特別区域法（平成23年6月29日法律第81号）」の8月1日施行に基づき、九州7県と共同して、アジア言語の通訳ガイドの量的不足解消等を目的に、「特区ガイドの創設」「留学生の特区ガイドとしての活用」に向けての規制緩和などを内容とする「地域活性化総合特別区域」指定の申請を9月27日付で行いました。

今後実施される国の審査とヒヤリングを経て申請内容が認められると、今年12月末には総合特別区域として指定が受けられることになり、国家試験を受けることなく、機構が行う研修等の受講によりガイドを行うことができます。

詳細は、当機構HP「お知らせ」の「地域活性化総合特別区域の指定申請について」をご覧ください。

<http://www.welcomekyushu.jp/whatsnew/?mode=detail&id=127>

申請内容（3つの規制緩和）
◆アジア言語の通訳ガイドの量的不足の解消 ①通訳案内士法第34条の規制緩和 →九州エリアに限定した有償ガイド（「特区ガイド」）の創設
②出入国管理及び難民認定法第19条第2項の規制緩和 →留学生の「特区ガイド」としての活用
◆地域の魅力ある旅行商品の企画提案の一層の促進 ③旅行業法施行規則第1条の2の規制緩和 →第三种旅行業者による「発着地までの移送手段も含めた企画」が可能

○ 京都府議会農商工労働常任委員会が当機構を視察（10月20日：福岡市）

京都府議会の農商工労働常任委員会（委員長：秋田 公司氏）8名が、九州の観光振興の取り組みを調査するため、当機構を視察しました。当機構から機構設立の経緯や、現在推進中の第三次九州観光戦略の各種事業などについて説明し、出席されたすべての委員から質問をいただくなど、官民一体となって広域観光を推進している当機構に大きな関心が寄せられました。また、当機構からは、九州新幹線鹿児島ルート全線開業を生かした、九州と京都方面の一層の観光交流促進、九州観光PRへの協力を要請しました。



○ 2011年度「第2回評議員会」を開催（10月26日：福岡市）

当機構の2011年度「第2回評議員会」を開催し、事務局から2011年度「第2回理事会」（11月10日、福岡市）にお諮りする以下の審議事項、報告事項についての説明を行いました。審議の結果、原案で理事会に諮ることとなりました。

<審議事項>

- ・ 役員の選任（案）、評議員の選任（案）、顧問委嘱の承認（案）、観光アドバイザーの委嘱（案）について
- ・ 2011年度補正予算（案）について

<報告事項>

- ・ 2011年度事業実施状況、「総合特区」申請、「なないろ九州バス」運行状況（上期）について



審議では「観光アドバイザー」の積極的な活用、「観光素材説明会・相談会」での各県アイデア等の反映、韓国・中国を中心とするメリハリのある「海外でのPR」、海外との新たな交通アクセスを踏まえた機構、県のプロモーション等についてご意見をいただき、今後の機構の取り組みに生かしていくことにしています。

○ 2011年度「第2回理事会」を開催（11月10日：福岡市）

機構の2011年度「第2回理事会」を開催し、事務局から以下の議案等についての説明を行いました。議案は審議の結果、原案どおり承認されました。

＜議案：審議事項＞

- ・ 役員の選任（案）、評議員の選任（案）、顧問委嘱の承認（案）、観光アドバイザーの委嘱（案）について
- ・ 2011年度補正予算（案）について

＜報告事項＞

・ 2011年度事業実施状況、「総合特区」申請、「なないろ九州バス」運行状況（上期）について
審議では、2012年度VJ事業予算確保での九州各県と連携した国への働きかけ、大公網を使った九州観光情報の発信、観光戦略としてのMICEへの取り組み、今年11月から運航開始した長崎・上海航路のPR等について貴重なご意見をいただき、今後の機構の取り組みに生かしていくことにしています。



○ 「九州観光“おもてなしの輪”創造特区」ヒアリングに対応（11月21日：東京）

当機構と九州7県が共同で申請した地域活性化総合特別区域「九州観光“おもてなしの輪”創造特区」について、内閣官房地域活性化統合事務局によるヒアリングが実施され、大分県とともに臨みました。ヒアリングでは「外国人留学生の資格外活動の規制緩和が無い場合の事業実施」の質疑で「規制緩和が不可能でも留学生を活用」と答えるなど活発なやり取りが行われました。

今回の特区申請については、九州で11箇所が申請しましたが、既に7箇所が篩いにかけており、今年12月末には特区指定が決まる予定です。



○ 日本観光研究学会「第4回研究論文発表会」に参加（12月10日：福岡市）

日本観光研究学会九州・韓国南部支部主催、当機構及び九州運輸局後援による「第4回研究論文発表会」が九州産業大学において開催され、応募論文12件が2会場に分かれて発表されました。

当機構からは、高橋事業副本部長が審査員として参加し「九州観光推進機構会長賞」を授与しました。九州観光推進機構会長賞には、福岡女学院大学の「被災地の観光地化—新しい可能性ジオパーク—」「宇宙観光の可能性」の2件が選ばれました。

なお、九州運輸局長賞には、大分大学の「東日本大震災が大分県内在住者の観光に及ぼした影響について」、福岡女学院大学の「城は地域を救うか」、日本観光学会会長賞は、九州産業大学「Wi-Fiを使った観光情報のあり方」、長崎国際大学の「メディカルツーリズムの現状と将来像」が選ばれました。



○ 「ひなの国九州フェスタ2012」を開催（1月17日～29日：太宰府市）

今年2月から九州各地で始まる“九州のひなまつり”を広く知っていただくため、「ひなの国九州フェスタ2012」と題し、九州国立博物館1階エントランスホールにおいて、九州のひなまつり広域振興協議会11地区のひな人形、ポスターの展示を行いました。

ホールでは、DVD「ひなの国九州」の放映、ひなの国九州2012年度版パンフレット及び各地区のパンフレットの展示・配布を行い、“九州のひなまつり”への誘客を図りました。例年に比べて入場者数は多く、今後の九州への観光客の増加につながることを期待されます。



○ 九州「ひなまつり広域振興協議会」佐賀視察研修会に参加（2月21日：佐賀市）

九州各地が参画した「ひなまつり広域振興協議会」佐賀視察研修会に参加しました。徴古館、佐賀市歴史民族館などの施設見学では、ガイドのおもてなし、格式あるたくさんのひな人形、見やすい案内板の設置、行き届いた清掃は、観光客に十分満足できる内容でした。

施設見学後の意見交換では、各地域のひなまつりのスタート時の集客状況の説明、取り組み事例等の紹介などは、今後の「ひなまつり広域振興協議会」運営に参考となり、非常に有意義な研修会となりました。



○ 2011年度「第3回評議員会」「第3回理事会」を開催（3月8日、22日：福岡市）

九州観光推進機構の2011年度「第3回評議員会」（3月8日）、「第3回理事会」（3月22日）を福岡市で開催しました。事務局から2012年度総会（5月）にお諮りする以下の事項について、評議員会の審議を経て、理事会で原案どおり承認されました。

- ・ 2011年度事業実施状況、2011年度補正予算（案）
- ・ 2012年度事業計画（案）、2012年度収支予算（案）
- ・ 役員を選任（案）について

また、理事会審議後、事務局から「総合特区申請結果等について」の報告を行い、昨年9月に国に申請し昨年12月の最終選考で惜しくも外れた「九州観光『おもてなしの輪』創造特区」については、改めて申請することで進めていくこととなりました。



2011年度「第3回理事会」

戦略Ⅱ 国内大都市圏などからの誘客戦略

（5）プロモーション活動の強化

○ 「平成23年度下期観光素材説明会・相談会」を開催（5月20日、26日、27日：東京、名古屋、大阪）

平成23年度下期の九州向け旅行商品の造成促進を図るため、旅行会社の商品造成担当者を対象とする「観光素材説明会・相談会」を開催しました。東京の説明会・相談会はJR九州と共催、名古屋・大阪の説明会は機構単独で開催し、旅行会社から参加者は、東京138名、名古屋23名、大阪39名でした。



説明会（東京）

説明会では、九州各県の最新の観光素材、「なないろ九州バス」の運行等の説明を行うとともに、引き続き実施した相談会では、旅行会社が各県ブースを回って相談に応じ、各ブースで熱心なやり取りが交わされました。

○「大九州展」を後援（6月1日：名古屋市）

東海旅客鉄道会社とのタイアップの一環として、ジェイアール東海高島屋主催による「大九州展」を後援し、九州の温泉を紹介する機構ポスター掲示、九州観光パンフレット配布、抽選会賞品提供などを行いました。当日は予想を上回る多くの来場者で賑わい、九州物産コーナーは数百名の行列ができるなど大盛況となりました。

主催者からは、「名古屋では九州は北海道と並んで人気があることから、同展の開催回数の増、規模の拡大を図っていきたい」との声があがっていました。



○「平成23年度下期観光素材説明会・相談会」を開催（6月9日：福岡市）

平成23年度下期の旅行商品の造成促進を図るため、今年5月の東京、名古屋、大阪に引き続き、福岡で「観光素材説明会・相談会」を開催しました。旅行会社10社30名の参加者を対象に、今年度下期に開催されるイベント（冬の九州灯りの祭典等）や新しくオープンする施設など九州各県の最新観光素材や「なないろ九州バス」の運行内容等の説明を行いました。

説明会後に行った相談会では、旅行会社からの商品化に向けた助言をもらうなど熱心なやり取りが行われました。



○「夏たびフェア in 岡山」に出展（7月23日～24日：岡山市）

中国地区から九州への観光客誘致を促進するため、JR西日本主催によりJR岡山駅前で開催された「夏たびフェア in 岡山」に南九州3県（熊本、宮崎、鹿児島各県）とともに出展しました。同フェアには約2万人の来場者があり、出展ブースでの九州各県観光パンフレットの配布、九州の天然水試飲コーナーの設置に加え、各日30分間のステージイベントにおいて、九州新幹線鹿児島ルート全線開業後の九州観光のPRを行いました。

今回の出展では、九州新幹線全線開業と東日本大震災の影響もあり、ブース設置の観光パンフレット等を持ち帰る来場者も多く、来場者の「九州」への関心の高さ、誘客推進の手ごたえが感じられました。



○ 福岡空港「九州旅の魅力展2011」に協力（8月2日～30日：福岡市）

福岡空港ビルディング株式会社主催による「九州旅の魅力展2011」の開催において、前年に引き続き、九州の観光素材提供の協力を行いました。

今年は、福岡空港第3ターミナルにおいて、九州各県のポスターとパンフレットの設置とともに、当機構ホームページに掲載のモデルコースのポスターを掲示し、福岡空港を利用するビジネスマンや旅行者に、秋の行楽シーズンの九州周遊



モデルコースのPRを行いました。開催期間中、空港利用客が足を止めて見入るなど、九州観光への関心を高めていただく機会となりました。

○ 平成23年度「九州7県合同修学旅行説明会」を開催（8月8日：東京、18日：大阪、19日：岡山）

九州各県・観光連盟と連携して、東京、大阪など大都市圏からの中学校・高校の教職員及び旅行会社修学旅行担当者を対象に「九州7県合同修学旅行説明会」を開催しました。今年度は、九州新幹線鹿児島ルート全線開業を生かした修学旅行誘致のため、昨年の広島に続き、岡山で初めて説明会を開催しました。

東京では73人、大阪93人、岡山32人の参加者があり、特に大阪会場は教職員の参加申し込みが昨年参加者数の倍近くとなっており、「東日本大震災と福島原発事故発生以降、修学旅行の行き先として九州地区への関心が高まっている」との声をもらいました。



○ 「飛んで！飛んで！九州キャンペーン」実施を発表（8月15日）

「飛んで！飛んで！九州キャンペーン」は、2007年度から毎年実施しており、今年度は、2011年10月1日～2012年3月31日まで行います。キャンペーン期間中は、九州域外在住の方で同一航空会社の国内九州路線を対象運賃で2回以上ご搭乗し、ご応募頂いた方から、抽選で合計510名様に九州への国内線往復航空券をプレゼントします。詳しくは8月15日にニュースリリースしました「飛んで！飛んで！九州キャンペーン」資料をご覧ください。<http://www.welcomekyushu.jp/tonde2011/>



○ 「平成24年度上期観光素材説明会・相談会」を開催（10月20日：東京、25日：大阪）

「平成24年度上期九州観光素材説明会・相談会」を東京、大阪で開催しました。今回は、「食&温泉」をテーマに九州7県の説明会・相談会を行いました。

東京はJR九州との共催により旅行会社27社・マスコミ10社の計210名の参加、大阪は旅行会社15社・マスコミ1社の計78名の参加があり、説明会に続いて実施した相談会では、旅行会社が各県のブースを回って熱心なやり取りが交わされました。



九州への誘客は、東京で120%、大阪250%の増となっており、今後も新しい九州観光情報の発信を強化することにより、より多くの観光客誘致が期待できます。

○ 「南九州たびフェア in 岡山」に参加（10月22日～23日：岡山市）

JR西日本が主催する岡山駅前のイベント「南九州たびフェア in 岡山」に熊本県、宮崎県、鹿児島県とともに参加し、各県の物産や観光スポット、新幹線を利用した九州旅行などのPRを行いました。

開催期間中は概ね天候に恵まれたことから、来場者は22日8,000人、23日に10,000人となりました。九州観光推進機構は、参加していない福岡、佐賀、長崎、



大分各県の情報を発信するとともに、ブース内では、各県に興味をもってもらえるような問題で構成したミニクイズラリーを行い、2日間で1,300人が参加されました。

○ 鉄道タイアップ「JRエージェント現地研修」を実施（10月27日～28日：天草、阿蘇・高千穂）

JR西日本管内の旅行会社を対象にした現地研修会を2コースに分けて開催し、天草コースは17名、阿蘇・高千穂コースに21名が参加しました。「天草コース」は今年10月にデビューした観光列車「A列車で行こう」の試乗、天草の教会遺産群やイルカウォッチングの視察、「阿蘇・高千穂コース」は特急「あそぼーい！」の試乗、乗馬体験、阿蘇神社周辺の散策、高千穂神社（高千穂町）や高千穂峡観光ルートの視察を行いました。

参加者のほとんどは、九州が初めてであり、参加者から「実際の企画業務や窓口業務の参考になった」との意見をいただき、現地研修は全般的に好評でした。



○「平成24年度上期観光素材説明会・相談会」を開催（11月24日：広島、29日：福岡）

「平成24年度上期九州観光素材説明会・相談会」を広島、福岡で開催しました。広島では、JATA中四国事務局の後援により「温泉&食」をテーマに、映画の九州ロケ地、ドラゴンボールなど新しい情報を取り入れながら九州7県による説明を行いました。旅行会社13社・マスコミ3社の計74名の参加があり、説明会後の相談会では、旅行会社が各県のブースを回り熱心なやり取りが交わされました。広島地区からの九州への誘客は前年比150%増となっており、今後もより多くの観光客誘致が期待できます。



広島

また、福岡では、会場を百道浜から天神に変えて開催し、繁忙期にもかかわらず旅行会社11社32名、その他計65名の参加がありました。相談会では、予定の時間をオーバーするやり取りとなり、地元の旅行会社等との連携強化を図ることができました。地元を大事にすることはおもてなしの心に繋がり、九州への誘客に結びつくことが期待されます。



福岡

○ 中部国際空港利用促進協議会「国内教育旅行説明会」に参加（11月30日：名古屋市）

中部国際空港利用促進協議会主催により「国内教育旅行説明会」が開催され、北海道・宮城・沖縄地区及び航空会社2社（ANA、JAL）とともに参加し、現地では愛知県及び近隣県の高等学校18校19名、旅行会社3社5名が出席しました。

九州のプレゼンテーションでは、九州の教育旅行素材と中部国際空港（セントレア）を発着地とするモデルコースの説明を行い、その後のワークショップでは、参加者からの問い合わせへの対応及び意見交換を行いました。九州外で修学旅行を実施している高校へのPRは概ね好評であり、今後の九州への教育旅行の増加につながるものと期待されます。



○「九州教育旅行現地視察会」を実施（12月23日～25日：長崎、佐賀、大分、福岡）

近畿・山陽地区の中学校の教職員を中心に、九州の最新の教育旅行素材を体験していただくため、北部九州4県の修学旅行現地研修を実施しました。「百聞は一見にしかず、大変参考になった」との意見を多くいただき、平和学習や体験学習に関する素材が好評でした。

本格的な寒波到来のため、予定していた体験学習の一部を変更または中止しましたが、長崎県松浦は初めて訪れる先生方が多く、豊富な体験学習に強い関心を示されました。実施時期は、年度末を除く三連休、次いで夏休み、春休みなど先生方が休みを取りやすい時期を希望されており、南九州の視察会の実施についても要望がありました。



○「南九州たびフェア in 岡山」に出展（3月17日～18日：岡山市）

JR西日本が主催する岡山駅前のイベント「南九州たびフェア in 岡山」に熊本、宮崎、鹿児島各県とともに参加し、各県の物産や観光スポット、新幹線を利用した九州への誘客をPRしました。開催期間中は小雨がばらつく天候となりましたが、2日間で2万1千人（対前年比95%）の入場者があり、会場はますますの人出となりました。

機構ブースでは、南九州各県以外の福岡、佐賀、長崎、大分県についても観光情報を発信するとともに、九州7県に興味をもつていただく問題を出題するミニクイズラリーを行い300人が参加されるなど、九州全体のPRを行うことができました。



（6）情報発信の強化

○「九州イベント集」を発行（8月26日）

秋の行楽シーズンに向け九州各地で開催される様々なイベント情報（2011年9月～11月）をタイムリーで使い勝手の良い形でまとめた「九州イベント集」を発行しました。

同イベント集は、当機構イベントでの配布、当機構の大阪梅田駅ブースでの設置を行い、九州外の方の旅行先としての「九州選択」、「もう一箇所観光」「もう一泊」を促進していきます。



○世界文化社取材に協力・特集発行（8月）

世界文化社「家庭画報」の特集「九州～旅情あふれる西街道～」の取材を誘致し、6月23日～7月1日の九州6エリアの取材アテンド等で協力しました。

特集は8月1日発行の「家庭画報」9月号（18万部発行）に掲載され、美しい大きな写真を使った構成は九州の旅情感で読者に大きな反響がありました。また、通常は行わない家庭画報の西日本新聞広告を実現することができました。

（主な内容）熊本：熊本城、阿蘇山、城彩苑、JR特急「あそぼーい！」

大分：玉の湯、安心院葡萄酒工房、市の坐

福岡：糸島の自然食材各種、ホテル日航、

鹿児島：マナーハウス重富荘、華蓮、薩摩伝承館、JR観光列車「指宿のたまたま箱」

長崎：大浦天主堂、雲仙ビードロ美術館、海里村上、
佐賀：副島硝子工業所、蟹御殿

○ 小学館取材に協力・特集発行（8月）

小学館「BE-PAL」の特集「九州産業遺産とトレッキング」の取材を誘致し、6月14日～17日の、福岡、熊本、大分、宮崎各エリアの取材アテンド等で協力しました。特集は、第1段として8月10日発行の「BE-PAL」9月号（22.3万部）に福岡エリアの八幡製鉄所、田川石炭歴史博物館、忠隈炭鉱ボタ山、田川あをぎり、三菱炭鉱巻上機の産業遺産が掲載され、読者に大きな反響がありました。今後、熊本、大分、宮崎の順に連載される予定であり、佐賀、長崎、鹿児島島の取材も計画しています。

○ 集英社取材協力・特集発行（9月）

集英社「エクラ」の特集「黒田知永子 九州新幹線で南九州へ」の取材に協力し、「九州新幹線で鹿児島へ」の標題の記事で、鹿児島エリアの観光スポットの魅力のPRを行いました。

取材は、仙巖園、やひろ食堂、鮭匠のむら、ZOO、GOOD NEIGHBORS、中川屋などで行い、9月1日発行の集英社「エクラ」10月号（6万部発行）で紹介されました。



○ 文芸春秋社取材協力・特集発行（9月）

文芸春秋社「クレアトラベラー」の特集「南九州鉄道の旅」の取材に協力し、鉄道の旅を中心として、熊本エリア（天草、人吉）、鹿児島エリア（鹿児島、指宿、霧島）の観光スポット、グルメのPRを行いました。

取材は熊本エリアで「きじ馬」「Kura蔵 Cafe」「阿蘇青井神社」「あゆの里海鮮蔵」「奴寿司」「五足のくつ」「ひらはた」、鹿児島エリアでは「横川げたんは」「妙見山荘」「霧島神宮」「花ん華」「ホテル南州館」「西大山駅」「薩摩伝承館」「温たまらん井」などで行い、9月10日発行の文芸春秋社「クレアトラベラー」9月号（6万部発行）で紹介されました。



○ 日経BP社取材協力・特集発行（10月）

日経BP社「日経おとなのOFF」の特集「神の国のワイン」の取材に協力し、熊本ワイン、都農ワインを中心に、その周辺の観光地（熊本城、白川水源、高千穂峡、都農神社等）やワインを出すお店としてワインバーやイタリアンレストランのPRを行いました。

取材内容は、10月6日発売の日経BP社「日経おとなのOFF」（7万5千部発行）で紹介されました。



○ 集英社取材協力・特集発行（10月）

集英社「LEE」の特集「深津絵里が行く、九州縦断の旅」の取材に協力し、鹿児島グルメ（鹿児島ラーメン、鶏飯）や荒尾のうなぎ、博多の屋台の取材を行いました。合せて、その周辺の観光施設である、桜島、嘉例川駅、HANASAKAN Café の情報収集を行い、10月7日発売の集英社「LEE」（30万部発行）に紹介されました。なお、予定していた九州新幹線の取材及び福岡の吉塚うなぎの取材は、台風の影響により中止しました。



○ 小学館取材協力・特集発行（10月）

小学館「CanCam」の特集「山本美月と行く！今福岡が熱い！」の取材に協力し、JR博多シティや大名・今泉地区のセレクトショップのPRを行いました。旅の情報としての趣を出すために、福岡市内のイタリアンレストランや居酒屋、今年9月にオープンした「レゾラ天神」「第2チャンネル」の取材も行われており、10月23日発売の小学館「CanCam」（40万部発行）で紹介されました。



○ 「九州イベント集 冬号」を発行（11月）

12月～2月の期間に九州各地で開催される様々な祭りやイベント情報をタイムリーに使い勝手の良い形でまとめた「九州イベント集 冬号」を制作しました。このパンフレットは、当機構のイベントでの配布のほか、大阪梅田駅の機構ブース等に設置し、九州旅行の選択、九州でのもう一か所観光、もう一泊を促していきます。



○ 小学館取材に協力（12月）

小学館「BEPAL」と協力して実施している「九州産業遺産群と九州自然歩道」の第2弾として、佐賀県と長崎県の産業遺産群の取材に協力しました。佐賀「三重洲海軍所跡」、伊万里「川南造船所跡」、長崎「軍艦島」、西海「崎戸鉱山跡」、佐世保「針尾送信所無線塔」のほか、その周辺の九州自然歩道の取材が行われ、「BEPAL」12月10日発売分（17万部発行）から3～4回にわけて連載されます。小学館担当者からは「読者の反響が大きい」とのコメントがあり、取材地への来客増が期待されます。



○ 新潮社取材に協力（12月）

新潮社「芸術新潮」に新規提案して実現した、九州で話題の「山本作兵衛氏」の作品とその人生を紹介する田川、飯塚での取材に協力し、12月25日発売の「芸術新潮」（5万部発行）に紹介されました。山本氏の九州以外での認知度は低く、新鮮な情報として読者にとらえられており、掲載後、編集部によくの問い合わせがあつています。



○ ハースト婦人画報社取材に協力（12月）

ハースト婦人画報社「婦人画報」に、2012年が「古事記1300年」に当たることを考慮して実現した、女優の南果歩さんの起用による、宮崎市「青島神社」、日南市「鶴戸神社」、高千穂町「高千穂峡」「高千穂神社」「旅館神仙」、熊本県山都町「幣立神社」などの取材に協力し、12月28日発売の「婦人画報」（10万部発行）に紹介されました。南果歩さんご自身のブログにもアップしていただいております、効果的な取材となりました。



○ 機構HP・プロ野球等「キャンプ情報」サイトをオープン（1月30日）

冬でも比較的温暖な九州では、2月からプロ野球、プロサッカー（Jリーグ）の春季キャンプが実施されています。当機構では、このようなキャンプの観戦客を誘致するため、機構HP「九州旅ネット」に宮崎県、鹿児島県、熊本県、大分県の「キャンプ情報」サイトをオープンし、最新のプロ春季キャンプ情報を発信しています。

<http://www.welcomekyushu.jp/camp/index.html>



○ 小学館取材に協力（1月）

小学館「和楽」特集「しあわせ和菓子名鑑」での九州のシュガーロードの取材に協力しました。

長崎の「カステラ」、諫早の「おこし」、小城の「羊羹」、佐賀の「丸ぼうろ」、福岡の「鶏卵素麺」、小倉の「栗饅頭」を取り上げていただき、1月12日発売の小学館「和楽」（8万部発行）で、観光施設とともに紹介されました。



○ 新潮社取材に協力（1月）

新潮社「旅」の特集として、九州各地（臼杵、天草、別府、日田、飫肥、熊本、田川、飯塚）の街並みとグルメ、観光施設を紹介する取材に協力しました。

1月20日発売の新潮社「旅」（5万部発行）で、各地の街並みに溶け込んだ魅力ある施設として紹介されたため、シックな内容の記事となり、ターゲットとする女性に九州が魅力あるエリアであることをアピールできました。



○ 集英社取材に協力（2月）

集英社「エクラ」の特集「福岡、佐賀、熊本、鹿児島観光情報」の取材に協力しました。「大人の女性が楽しめる、福岡（糸島）、佐賀（唐津）」ではグルメと焼き物、「夫婦で楽しめる鹿児島」では焼き物・雑貨・グルメ、「温泉通の大人が楽しめる阿蘇」では主に温泉の情報をピックアップしており、2月1日発売の「エクラ」（6万部発行）で紹介されました。



○ 小学館取材に協力（2月）

小学館「旅サライ」の特集として「南九州の焼酎」の取材に協力しました。焼酎アドバイザーとして活躍中の「葉石かおり」さんをナビゲーターとして、宮崎（綾）、鹿児島、串木野、人吉の焼酎製造元の取材を行い、鹿児島の焼酎等にあうグルメ、食事処などが2月24日発売の「旅サライ」（10万部発行）で紹介されました。



○ 小学館取材に協力（3月）

小学館「BE-PAL」の（3月6日発売、22万部発行）の連載記事「ゲンキな田舎！」において、九州の民泊を紹介する取材に協力しました。長崎県大村市の包丁職人宅への民泊を中心に取材を行い、トピックスとして、佐賀県三瀬、大分県安心院、宮崎県宮崎市などでの民泊が紹介されており、九州の民泊の素晴らしさが十分に伝わる内容となりました。



○ えい出版社取材に協力（3月）

えい出版社「ディスカバージャパン」（3月10日発売、12万部発行）の特集「南九州の鉄道」の取材に協力しました。

肥薩線（人吉～吉松）を走る「いさぶろう・しんぺい」、肥薩線・日豊本線・鹿児島本線（吉松～隼人～鹿児島～鹿児島中央）の「はやとの風」、鹿児島本線・三角線（熊本～宇土～三角）の「A列車で行こう」などの人気列車を軸に、鉄道を利用した南九州の旅が紹介されました。



(7) プレゼンテーション活動の強化

○ 「なないろ九州バス視察研修会」を開催（4月22日～23日：福岡、大分、宮崎、熊本）

「なないろ九州バス」の周知を行い、お客様の目線にたった商品企画や販売促進を図るため、機構会員として加入していただいている旅行会社の企画担当者及び店頭スタッフを対象とする「なないろ九州バス視察研修会」を実施しました。

研修会では、通常運行している「なないろ九州バス」に乗車し、別府・由布院、高千穂・中九州コースを体験してもらいました。

参加者アンケートでは、『なないろ九州バス』に対して積極的に勧められる」との回答を多数いただくとともに、参加者から『なないろ九州バス』の特徴と改善点を肌で感じてもらったことは、同バスに対する意識が高まり、新たな商品企画及び販売促進に繋がる」とのコメントがあるなど、今後の誘客増が期待できる結果が得られました。今後も旅行会社と連携して宣伝を行っていくことにしています。



○ 「第35回フラワーフェスティバル」で観光PR（5月3日～5月5日：広島市）

中国新聞社主催の「第35回フラワーフェスティバル」の九州ブースにおいて、九州観光ポスターを掲

示するとともに、「なないろ九州バス」のパンフレット等を配布し観光PRを行いました。また、九州ブース来場者アンケートのプレゼント賞品として、「なないろ九州バス」旅行招待を用意しました。

アンケートの回収では、九州新幹線鹿児島ルート全線開業による誘客効果を見込み2010年度から中国地域における観光PRを強化したことなどから、例年500人程度を大幅に上回る800人から回答が得られ、広島地区における九州への関心の高まりを裏付ける結果となりました。

○ 中国地域メディアとタイアップした九州の旅番組を制作・放映（9月）

テレビ新広島とタイアップして、九州7県の旅番組「ぐるっと九州まるかじり親孝行下見ツアー（85分）」を制作し、9月10日に中国・四国地域のローカル局及び全国ネットのBSフジで放映されました。撮影にあたっては、地元の観光協会等から全面的な協力を得て、オーソドックスな観光情報から地元ならではのレア情報までを網羅する充実した内容となりました。

また、番組放映に合わせて旅行会社が秋の旅行商品を造成し、テレビ新広島を中心にCM放映を9月に集中的に流しており、中国・四国地方からのさらなる誘客に繋がるものと期待されます。

○ 「来て見て食べて感動！九州観光・物産フェア with 東北2011」を開催（10月8日～10日：東京）

「来て見て食べて感動！九州観光・物産フェア with 東北2011」（主催：「来て見て食べて感動！九州観光・物産フェア」実行委員会）を代々木公園で開催しました。5回目となる今年は、「がんばろう東北」へのメッセージも込めて、東北の名産品の実演販売を含む合計56店がブースを出展し、九州のグルメ、名産品や飲料の実演販売が行われました。また、ステージでは、九州各自治体の観光PRで「くまモン」をはじめ九州各県のゆるキャラが大集合したほか、郷土芸能として「長崎龍踊り」「小倉祇園太鼓」が披露され、会場を盛り上げました。



今回のフェアは新たな取り組みとして、全ての出展者を対象に、来場者の投票による「グルメコンテスト in Yoyogi」を「実演の部・販売の部」の2部門で実施するとともに観光PRブースでは、高千穂彫り物体験、野菜ソムリエによる簡単鹿児島ゴーヤ料理教室、別府竹細工体験を行いました。



3日間は好天に恵まれたこともあり、来場者は昨年（14万人）を上回る過去最高の14.2万人が訪れ、好評のうちに終了しました。

○ 「キレイになる九州旅体験女子会」を開催（11月14日：東京）

首都圏在住で、旅行好き、九州旅行への興味を持っている20代～30代の女性層をターゲットに「行きたくなる九州」を印象付け、実際に九州旅行を喚起することを目的に「キレイになる九州旅体験女子会」を開催し、189人の参加がありました。

お台場の会場では、九州各県の選りすぐりの食材を現地から取り寄せて使ったディナーのほか、九州7県体験ブース内での各県自慢のご当地アイテム&スイーツを味わってもらいました。後半のトークショーでは、はしのえみさん（鹿児島県出身）、当機構温泉ブログを担当している花田伸二氏をゲストとして、



九州のバラエティ豊かで個性を楽しむ旅のポイントを地元出身者の視点から紹介し、九州の魅力の一端を体験してもらいました。今回のイベントは、九州に赴くきっかけづくりとなり、メディアを活用した情報発信を行いました。

○ オズマガジン12月増刊号に「九州女子旅」を掲載（11月）

スターツ出版の取材に協力し、11月2日発行の首都圏女性情報誌「オズマガジン」冬の旅12月増刊号（9万部）に、九州の温泉・スイーツ・パワースポットの3つのテーマで巡る九州女子旅が8ページの特集で紹介されました。この雑誌による紹介は、首都圏女性の九州旅への関心をより高めるものと期待されます。



- ①一度は行きたい憧れの温泉地へ【熊本（黒川）、大分（湯布院、別府）】
- ②スイーツ天国・シュガーロードに行く【長崎、佐賀、福岡（小倉）】
- ③神話の世界に浸る心すっきりパワーチャージの旅【宮崎、鹿児島】

○ 「九州観光セミナー in 新潟」を開催（12月14日：新潟市）

2011年10月、福岡・新潟空港間のフジドリームエアラインズの新規就航に伴い、同路線の利用促進を図る新潟県の要請を受けて、北陸地方の政令市では初めて「九州観光セミナー in 新潟」を開催しました。

セミナーには旅行会社等から約40名が参加し、マスコミ5社の取材がありました。報道を見た一般の方から九州観光のモデルコースについての照会がっており、九州への関心度の高さが窺われました。新潟県は、来年度、九州での航空路線PRを予定しており、新潟発九州旅行商品の増加が期待されます。



○ 「東北・九州・沖縄合同観光展」を開催（12月17日～18日：大阪市）

東日本大震災の復興イベントを通して、九州新幹線鹿児島ルート全線開業による誘客増を図るため、JR大阪駅において、東北6県（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）、在阪九州各県協議会により合同観光展を開催しました。

同観光展は、観光大使による観光PR、ゆるキャラ大集合、奄美島唄、東北と九州がつながるクイズ大会など数多くのイベントを実施し、この冬一番という冷え込みながらも、2日間で8千人の来場者がありました。



また、前々日から2日間にわたり、ラジオ大阪は両地方の観光情報を広く発信しました。これほど広域的な合同観光展は過去に例がなく、両地方の観光素材を対比させて、それぞれ地域の魅力を引き立たせるとともに、九州サイドが事業全体のコーディネートに専念したことから、東北支援の目的も果たすことができました。

○ 「まるごと九州・沖縄～春の大観光展～」を開催（2月18日～19日：広島県安芸郡府中町）

「情熱祭り！まるごと九州・沖縄～春の大観光展～」を九州各県、日本観光振興協会九州支部と連携し、イオンモール広島府中ソレイユで開催しました。



九州・沖縄8県のレディによる観光PR、各県観光ブースでの各県レディ・観光連盟等の職員によるお薦めのスポット案内・旅行相談、名県産品が当たる各県観光クイズ大会、スタンプラリーの実施とともに、九州7県合わせて18の出店、明太子づくりと別府竹細工づくりを体験していただきました。

イベント開催に先立ち、テレビ新広島において、テレビCM35本、朝の情報番組「ひろしま満点ママ!!」で開催前の7日間にわたり九州各地の観光地・特産品のPRを行いました。開催前日の17日には、同番組に九州各県レディが生出演して、イベント、各県観光の説明を行い、平均視聴率は9.2%（最高11.2%）となりました。また、中国新聞社をはじめ主要新聞社を訪問、イベントのPRを行い、18日の中国新聞、読売新聞朝刊に記事が掲載されました。さらに、イベント初日は「情報チャージ知りため!」の生番組による周知を行うとともに、特設のホームページでPRを行いました。（ページビューは前年比873%の13,495）

初日は雪模様でしたが、2日間で13万人の参加があり、九州が一体となって誘客に取り組んでいる姿をアピールすることが出来ました。



*2/17「ひろしま満点ママ!!」生放送

戦略Ⅲ 海外からの誘客戦略

(8) 国や各県との連携

○ 各県・観光連盟等海外担当者臨時意見交換会を実施（4月8日：福岡市）

東日本大震災で打撃を受けた外国人観光客誘致についての情報共有と対策検討を行うため、九州各県・観光連盟の海外担当者及び九州運輸局と臨時の意見交換会を開催しました。（26名出席）

会議では震災後の九州の状況や今後の取り組み等について情報共有を行ったほか、誘致対策として、九州安心メッセージ（後掲）発信の検討を行いました。今後も海外での風評被害の払拭等のため、関係者間で緊密な連携をとりながら対応していきます。

○平成23年度「九州観光推進機構担当者会議」を開催（4月22日：福岡市）

今年度の機構の事業実施方針等について意見交換を行うため、九州運輸局及び九州各県の国内・海外事業担当者と当機構との「九州観光推進機構担当者会議」を開催しました。（全体で73名出席）

会議では、東日本大震災後の影響と対策について多くの意見が出され、九州一体となって効果的に対策を実施する必要性が強調されました。今後も、関係機関の意見を踏まえながら、国内外からの観光客誘致に取り組めます。

○平成23年度第2回「九州各県海外誘致担当者会議」を開催（11月28日～29日：佐世保市）

今年度第2回目の「九州各県海外誘致担当者会議」を長崎県のハウステンボスで開催し、機構、九州運輸局及び各県の今年度事業実施状況、来年度計画について、意見交換等を行いました。

今年度は外国人入国者数が東日本大震災等の影響により前年割れの状況が続いており、風評被害の払拭や九州旅行商品造成のため、九州各県の関係者が連携



した各種の取り組みを報告するとともに、今後実施すべき取り組みについての提案や情報提供をしました。

今回の会議の意見等を踏まえて、今後も九州各県などの関係者と連携した海外プロモーション、海外からの観光客受け入れ体制の整備支援に取り組んでいきます。

○ 中国「元気な日本」展示会出展を支援（2月24日～26日：上海市）

在上海日本国総領事館等の主催で観光・物産等の大規模展示を行う「元気な日本」展示会に、在上海市の九州自治体事務所等が共同で九州ブースを出展し、当機構も出展経費等で支援を行いました。

九州ブースは、会場内で目を引くデザイン（2階建て）を施して、着物試着、メイクアップ体験等のイベントを行ったため、ブースには多数の来場者があり、効果的に九州の観光PRを行うことができました。今後も在中国関係者と連携しながら九州への観光客誘致を行います。

○ 中国・クルーズ関係旅行会社等を招請（3月5日～9日、16日～20日：九州各地）

九州運輸局と連携して、中国から九州へのクルーズを運航しているロイヤルカリビアンインターナショナル社、コスタクルーズ社、関係旅行会社のキーパーソンを招請し、九州各地で視察を行いました。

第一団として来訪したロイヤルカリビアンクルーズ社と北京市を中心とする関係旅行会社のグループは、長崎（軍艦島）、大分（杵築）、宮崎（高千穂）、鹿児島（知覧）等を視察した後、長崎で九州の関係者との意見交換を行い、次年度のクルーズ船受入体制等について協議しました。続いて訪れたコスタクルーズ社と上海市を中心とする関係旅行会社のグループは、福岡（柳川）、佐賀（唐津）、熊本（人吉）、大分（由布院）等の視察を行い、福岡で関係者との意見交換を実施しました。

今年は両社とも九州に寄港する船が大型化し、より多くの来訪者が期待できることから、これまで以上に綿密に両社と連携を取りながら、クルーズ商品の販売促進や受入体制の充実に取り組んでいきます。



（9）海外でのPR

○ 中国「上海世界旅遊資源博覧会(WTF2011)」に出展（5月12日～15日：上海市）

「上海世界旅遊資源博覧会（WTF2011）」に九州ブースを出展し、九州の観光PR等を行いました。今回は日本ゾーンの中で最も広いスペースを確保したこともあり、多数のお客様が来場されました。（博覧会全体で約2万6千人）

業界関係者を対象する開催期間前半は、上海市を中心とした中国の旅行会社やメディア等との情報交換を行うとともに、後半の一般開放日には、来場された多数の市民の方々に九州の観光情報及び通常通り観光を楽しめる現状などをお知らせしました。

また、九州ブースには上海に事務所を構える九州各県・市および会員企業の駐在員の方々や、JTB九州観光ネットワーク推進協議会メンバーに応援に駆けつけていただき、九州一丸となつての取組みを強くアピールしました。

今後も引き続き、関係者の皆様と協力しながら中国での認知度向上及び誘客を図っていきます。



○ 香港「第25回香港国際旅遊展(ITE2011)」に出展 (6月9日～12日:香港)

福岡県及び鹿児島県香港事務所の協力を得て「第25回香港国際旅遊展(ITE2011)」に出展し、九州の観光PRを行いました。

九州のブースは、多忙な都会生活を送る香港の方々への提案として、農家民泊を含むモデルコースやイメージ喚起の写真を提示し、九州らしい温かさが伝わるような装飾を行いました。

また、各県から提供されたパンフレット・ノベルティ類の配布と併せ、アンケート回答者お礼のペットボトルホルダー、希望者に配布する色とりどりの風船を準備するなど明るく元気な九州を演出しました。全出展者の中では日本コーナーが最も来場者を集めており、香港における日本の人気を再確認するとともに、今回は九州ブースでBBCワールドニュースの取材を受けるなど、効果的に情報発信を行うことができました。

なお、主催者発表の来場者数は、業界関係者が集まる9日～10日は11,820人(前年比+3%)、一般来場の11日～12日は69,320人(同+0.6%)の前年増となりました。



○ シンガポール「日本への旅行展」に出展 (7月15日～17日:シンガポール)

シンガポールのチャンギ空港で開催された「日本への旅行展(Japan Timeless Travel & Fair)」(主催: Ishikawa Communication 共催: チャンギ空港)に出展し、九州の観光資源をPRしました。当イベントは旅行展のみならず、伝統的な日本食の試食・試飲コーナーの設置や、日本太鼓、舞踊、茶道といった文化部門、現代を代表するコスプレ・コンサートといったCOOL JAPAN部門など多岐にわたるパフォーマンスが行われました。初日の開会式は、メディア等を含めて約200名が出席し、イベント来場者数は約2,000人でした。

九州ブースでは、来場者へのお茶、お菓子を提供しながら、九州の観光案内を行いました。来場者からは東日本大震災の影響を懸念する声はほとんどなく、九州旅行に関する多数の質問をいただきました。今後もシンガポールでのPRを継続的にを行い、九州の知名度向上と観光客誘致を図っていきます。



○ タイ「海外旅行博覧会(Thai International Travel Fair 2011)」に出展

(8月18日～21日:バンコク市)

バンコク市で年2回(8月及び2月)開催されるタイ最大の一般消費者向けの旅行販売フェアThe 9th「Thai International Travel Fair 2011」に出展し、九州の観光PRを行いました。タイ市場での九州の認知度は年々向上しており、今回のフェアでは、来場者に対する具体的な観光地の紹介・PR活動を強化したため、大きな手応えを実感することができました。

来場者からの東日本大震災後の不安・懸念に関する質問はほとんどなく、当フェアでの日本旅行購入者が好調だった前年と比べて96.2%の856名となるなど、タイ市場に回復感が出てきており、今後も更なる観光客誘致を図っていくことにしています。



○ シンガポール「海外旅行博覧会(NATAS Holidays 2011)」に出展 (8月26日～28日)

シンガポール最大の一般消費者向け海外旅行博覧会「NATAS HOLIDAYS 2011」に出展し、九州観光PRを行いました。九州への旅行を懸念される方もあり、安全な九州と魅力的な観光地のアピール中心の内容となりました。九州の認知度は年々高まってきており、FITによる九州旅行を考えている来場者が非常に多く見受けられました。

また、開催終了後の29日に行われた併催事業の旅行会社向けの「日本観光説明会及び商談会」に参加し、各旅行会社との連携強化、今後の誘客拡大に向けての課題共有を図ることができました。



○ 中国「天津国際観光産業展示会」に出展 (9月2日～4日:天津市)

中国国家旅遊局などの主催による「天津国際観光産業展示会」に九州のブースを出展し、九州の観光PRを行いました。期間中、ブースを訪れた多数の市民への九州観光情報の効果的なPRに努めましたが、今回の出展を通して、九州の知名度が依然低いことがわかりました。

天津市は九州に寄港するクルーズ船の発着港となっているほか、福岡との間に航空便も有している有望な市場であるため、今後も引き続き同市でのPR等に努め、九州の知名度向上を図ります。



○ 中国「広東国際旅游産業博覧会(CITE2011)」に出展 (9月2日～5日:広州市)

中国国家旅遊局などの主催による「広東国際旅游産業博覧会 (CITE2011)」に出展し、九州の観光PRを行いました。期間中に旅行業関係者が集まる開催日には、多くの旅行会社と商談を行い、九州が問題なく旅行できることを説明しました。

また、一般の方々の来場日は、多数の市民が九州のブースを訪れ、九州の観光情報を効果的にPRすることができました。

広東省は、急速に経済発展を遂げている地域で富裕層も多く、旅行を含め消費意欲が旺盛であることから、今後も引き続き、同省でのPRに努め、誘客拡大を図ります。



○ シンガポール「九州物産展(Autumn Kyushu Fair 2011)」に出展 (9月6日～19日:シンガポール)

シンガポール伊勢丹スコッツ店で開催された「九州物産展 (Autumn Kyushu Fair 2011)」に九州の観光ブースを出展し、九州に関心を持つ一般消費者向けに、九州の豊富な観光資源をPRしました。9月16日～18日の3日間は、九州で有名な似顔絵イラストレーター「たおゆか」氏を招いて、九州旅行や九州物産を購入したお客様にイラストをプレゼントする特別イベントを実施しました。

九州の物産販売は、前年比110%と、今年3月の震災後、現地伊勢丹の物産展では初めて2桁の伸び率となりました。



○ 韓国「日韓交流おまつり2011 in ソウル」に出展（9月25日：ソウル特別市）

ソウル市庁前広場で開催された「日韓交流おまつり2011 in ソウル」に機構ブースを出展し、九州の観光PRを行いました。当イベントは、九州に関心を持つ一般消費者向けに九州観光をPRするものであり、震災後の九州観光への不安を払拭するとともに、九州各県の豊富な観光資源を直接アピールできました。

ブースでは、浴衣の着付け・記念写真撮影、九州各県の銘酒の試飲、じゃんけん大会による九州各県の特産品プレゼント等のイベントを行い、多くのソウル市民に楽しんでいただくなど盛況でした。

今回の出展を通じて、九州への訪問の頻度は依然低いことが確認されたため、今後も九州観光PRを強化していきます。



○ 韓国「第8回日本歌謡大会」に協賛（10月8日：釜山広域市）

日本文化の理解促進等を目的として、在釜山日本国総領事館、対馬市、社団法人釜山韓日文化交流協会の主催により「第8回日本歌謡大会」が開催されました。

日本歌謡大会は例年6月に開催されますが、今回の大会は東日本大震災等の影響により10月開催となりました。大会には600組がエントリーし、17組が予選を勝ち抜き決勝に進みました。会場には前回大会（約200人）を上回る約300人の来場者があり、年々盛況になっています。

表彰式では、当機構から「九州観光推進機構賞」として、優秀者に選ばれた「イ タギョン氏」「イ ホソン氏」「キム ハナ氏」に、フェニックスシーガイアホテル、霧島いわさきホテル、JR九州高速船からご提供いただいた宿泊券（1施設）、福岡・釜山往復「ビートル乗船券」の旅行目録を授与しました。



○ シンガポール「平成23年度VJ中央事業(JAPAN TRAVEL & FOOD FAIR 2011)」に出展

（10月8日～9日：シンガポール）

シンガポール高島屋において「平成23年度VJ中央事業（JAPAN TRAVEL & FOOD FAIR 2011）」に出展し、九州の観光PRを行いました。この事業は、10月をJapan Monthとして位置づけ、訪日旅行の「完全復活」をPRするために行われたものであり、会場では自治体等による観光情報提供のほか、現地旅行会社による日本旅行商品の販売、日本特産物「食」の試食会・即売会などを実施しました。フェアは近隣諸国のお客様が訪れる店舗で行われたため、週末はシンガポールを始めとする、インド、インドネシア、マレーシア等の多くの富裕層の方々が来場され効果的に九州をアピールするとともに、九州への興味、関心度が非常に高まっていることが感じられました。



○ インドネシア「TTC TRAVEL MART INTERNATIONAL 2011」に出展（10月12日：ジャカルタ市）

インドネシアで年2回開催される旅行関係者向け商談会「TTC Travel Mart International 2011」に出展し、現地旅行会社に向けて九州観光素材のPRを行いました。セラー側（九州からの旅行会社など）100

社、バイヤー側（現地旅行会社）200社程度が参加しました。現地旅行会社は関東・関西ルートに次ぐ新しいデスティネーションを強く求めていたため、多くの会社が九州に興味を示しており、初めての出展で九州観光を効果的にアピールできました。



○ 中国「国際旅游交易会(CITM2011)」に出展（10月27日～30日：昆明市）

中国国家旅游局主催の「国際旅游交易会（CITM2011）」に出展し、九州の観光PRを行いました。同地では初めての出展となったことから、九州の基本的な観光情報の提供を中心に行いました。日本からの参加が少ない中、九州のブースは多くの旅行業界関係者や一般市民が訪れ、効率的に九州について紹介しました。

同イベントは上海市と昆明市で交互に年1回開催されており、中国各地の主要な旅行会社等が参加するイベントであることから、次回も出展する予定です。



○ 台湾「第19回台北国際旅行博(ITF2011)」に出展（11月11日～14日：台北市）

台湾最大の旅行博覧会である「第19回台北国際旅行博（ITF2011）」に出展し、旅行会社及び一般市民向けに九州の観光PRを行いました。今回は出展場所が従来の1号館に加え、ホテル・施設の出展のため3号館まで拡大し、61か国・地域850団体の参加、過去最多の251,231人の来場者となりました。

九州ブースでは、楽しい列車の旅をテーマに、イメージ喚起のためのモデルコース4本（福岡イン・アウト2、宮崎イン・アウト1、宮崎イン・福岡アウト1）を掲載するフリーペーパー5千部を準備・配付するとともに、これに関連するブース装飾、別会場でのプレゼンテーション等を行いました。ブース内でのスロットゲーム実施では、連日順番待ちの行列が見られ、それ以外の時間帯でも九州の情報を求めてブースを来訪する方が多数あるなど大盛況となり、機構や各県等が準備した観光パンフレット類は連日品切れになりました。



○ 「VISIT JAPAN トラベルマート2011」に出展（11月22日～23日：横浜市）

観光庁および日本政府観光局が主催する、大型インバウンド商談会「VISIT JAPAN トラベルマート2011」に出展し、アメリカ、カナダ、フランス、ロシア、デンマークをはじめ、アジア各国の旅行会社、メディア向けに九州観光のPRを行いました。当日の商談会には、海外の旅行会社270社、メディア30社、日本側旅行会社370社が参加し、大盛況でした。

また、当イベント併催の日本国内各地へのファミトリップでは、九州コースに多数の応募があり、認知度とともに注目度も向上していることが感じられました。



○ JNTO「インバウンド旅行振興フォーラム」に参加（2月2日～3日：東京）

JNTO（日本政府観光局）「インバウンド旅行振興フォーラム」の市場説明会及び個別相談会に参加し、

各国の訪日旅行市場の情報収集を行いました。各国在駐のJNTO代表者は、「九州は日本のゴールデン・ルートに次ぐデスティネーションとして注目されている」とみており、九州観光パンフレットの継続的な送付の要望が多数ありました。

○ タイ「TITF2012 及び商談会」に出展（2月23日～26日：バンコク）

タイのバンコクで開催された一般消費者向け旅行博「Thai International Travel Fair 2012 及び商談会」にブースを出展し、来場者に直接、九州の観光素材や代表的な観光ルートを紹介しました。4日間の来場者は80万人に達し、ジャパゾーンへの日本各地からの出展参加も過去最高となりました。

商談会及び九州ブースに訪れた現地旅行業界関係者からは、既に確定している九州向け団体旅行に関する問い合わせが多くあり、九州の認知度の高まりが感じられました。最終日は会場内に設置されたメインステージにおいて、昨年11月に九州に招請したタイの旅行雑誌「トラベラーズ・コンパニオン」により、九州観光の魅力が紹介されました。



○ シンガポール「NATAS及び商談会」に出展（2月24日～27日：シンガポール）

シンガポールで開催される最大の旅行博（NATAS TRAVEL）に九州ブースを出展し、来場者に九州の魅力溢れる観光素材や代表的な観光ルートをPRしました。NATAS開催の3日間（2月24日～26日）で6万5千人を超える来場者があり、日本向け旅行商品の販売は欧州に次ぐ第2位となり、東日本大震災前の水準まで回復しました。

なお、九州ブースは入口正面の最も目立つ場所に配置されており、このことは、JAPANブース主催者のJNTOが「九州は大変有望な地域である」との認識を示していると言えます。

一般市民の九州の認知度向上とともに、現地旅行会社も積極的に九州商品を新規造成していることから、九州は新たなデスティネーションとして注目されており、今後も積極的なPRにより、九州への観光客誘致を行います。



○ 中国「2012日本商品直送 in 中国」に出展（3月2日～4日：上海市）

日本商品直送事務局（森ビル都市企画株式会社ほか）主催で日本物産等を展示する「2012日本商品直送 in 中国」に九州ブースを出展し、九州観光PRを行いました。会場には4万7千人の来場者があり、九州ブースに非常に多くの方が立ち寄られました。

九州観光キャラクターの「キューちゃん」を初めて中国で披露したところ、「可愛い」との印象から人気を集め、「キューちゃん」が九州のイメージの効果的なPRに一役買いました。今後も一般の方への観光PRを積極的に行い、中国での九州の知名度向上に取り組んでいきます。



(10) 各国・地域の市場特性に応じた誘客

○ 韓国・ハナツアーブロッガー九州取材を支援（4月11日～13日：九州各地）

韓国のハナツアーが東日本大震災後の九州の安全性をPRするために実施する、韓国人気ブロッガー100人による九州取材を支援しました。

これは東日本大震災後の外国人観光客誘致対策として、韓国人気ブロッガーに九州の魅力取材していただき、ブログを通じた情報発信支援を行うものであり、その様子はNHK（九州）や日本テレビ（全国）でも取り上げられました。ブログでは、九州の安全性についてのコメントが多く掲載され、これらのコメントにより、今後多くの方が安心して九州を訪問してもらえるものと期待されます。

○ 韓国・アジアナ航空「STUDY TOUR」を支援（4月14日～17日：福岡、熊本、大分、宮崎）

東日本大震災後の外国人観光客誘致対策として、韓国のアシアナ航空が実施する旅行会社ファムトリップ「STUDY TOUR」を支援しました。

参加者は、旅行代理店の責任者クラスの方であり、九州の現状・安全性を再確認いただきながら、訪問先の県で地元の観光関係者との活発な意見交換を行いました。参加されたアジアナ航空、旅行会社からは、今後、九州商品を積極的に販売していきたいとの意欲が窺われました。

○ 台湾メディア及び旅行会社招請を支援（4月21日～24日：宮崎、鹿児島）

東日本大震災の影響により宮崎台北国際定期便も4月上旬から欠航が相次いでおり、この状況の打開を図るため、宮崎・鹿児島両県は、中華航空とのタイアップにより台湾のメディア10社及び旅行会社11社等から合わせて30人を南部九州に招請しました。

これに伴い、機構もバス運行等での支援を行い、台湾からの旅行者が安心して訪問できる南部九州の現状の発信及び当地の観光PRを行ってもらいました。



○ 香港・震災後再開ツアー第一弾を出迎え（4月22日～30日：福岡市）

東日本大震災後、香港旅行会社による訪日団体旅行の募集が中止されていましたが、このほど、大手2社（EGL、パッケージツアー）がいち早く4月16日以降出発の募集を再開し、4月22日にはパッケージツアー（18名）、同30日にはEGL（20名）の九州向けツアー第一弾が福岡空港に到着しました。

当機構は、九州運輸局、福岡県及び福岡市と連携し、到着ロビーで横断幕を準備して出迎えるとともに、スモールギフトを手渡して歓迎の意を表しました。参加者の帰国後、九州は安全・安心であることが口コミで知人・友人に伝わることを期待されます。



○ 中国・震災後初訪日ツアー、同行陝西省マスメディアを出迎え（4月29日～5月4日：九州各地）

東日本大震災後、中国からの訪日ツアーが初めて催行され、陝西省西安市ツアー参加者40名が4月29日～5月4日の日程で九州を訪れました。福岡空港到着時、当機構は九州運輸局、福岡県、福岡市など関係機関と連携し、到着ロビーで出迎えるとともに



に歓迎セレモニーを実施しました。セレモニーでは当機構石原会長による歓迎挨拶を行い参加者に記念品を手渡しました。その後、ツアー一行はハウステンボスや阿蘇、別府等を訪れた後、福岡市内で「博多どんたく港まつり」を観覧するなど、九州での滞在を満喫しました。

また、このツアーに同行する形で、陝西省の新聞・テレビ等マスメディア4社5名を関係各縣市等と共同で招請し、九州各地で通常通り観光を楽しめる様子を取材してもらいました。この様子は現地で報道されており、九州の現状に関する誤った風評が早い段階で払拭されることが期待されます。

○ 台湾・メディア取材旅行を支援（5月10日～14日：福岡、長崎、熊本）

東日本大震災による訪日観光客の大幅減少対策として、在台湾のランド社がエバー航空の協賛のもと、九州内宿泊施設等とのタイアップにより、台湾のメディア（TV局6社、新聞1社等）関係者一行17名による北部九州（福岡、長崎、熊本）の取材旅行を行いました。ソフトバンクホークスの王会長をはじめ、JR九州社長、福岡・佐世保両市長、福岡・熊本両県の観光担当課長等へのインタビューにより、九州が安心して旅行できる地域であることを効果的に発信することができました。また、当機構は九州内移動等費用面の支援を行いました。



○ 韓国・済州オルレが九州視察（5月11日～14日：熊本、大分、福岡）

韓国で注目を集めている済州オルレ（ウォーキング）の九州版の構築のため、済州オルレの責任者4名を招請し、北部九州（熊本、大分、福岡）各地の候補地である、阿蘇・黒川・湯布院・耶馬溪・大宰府・百道のウォーキングコース及び観光地の現地視察を3泊4日で実施しました。

今後も、九州各名所でコース視察を続けていただき、魅力ある九州版オルレコースを多数設定していくことにしています。



○ エバー航空エージェント招請を支援（5月15日～18日：熊本、佐賀、長崎）

社団法人長崎県観光連盟が幹事となり、エバー航空とタイアップのうえ、関係県（佐賀、長崎、熊本）と連携して台湾のメディア（新聞2社、雑誌6社、TV局1社）関係者12名を招請し、北部九州の視察旅行を行いました。

博多～熊本間の新幹線を体験した他、熊本城、阿蘇、祐徳稲荷神社、伊万里の窯元、ハウステンボスなど各地の賑わいを実際に自分の目で確かめることで、九州が安心して旅行できる地域であることをメディアに実感してもらいました。また、当機構は九州内移動等国内での費用面の支援を行いました。



○ 韓国に訪問団を派遣（5月17日～19日：釜山広域市、ソウル特別市）

東日本大震災による訪日観光客の大幅減少対策として、韓国の政府機関やメディア、旅行会社に九州の現状を周知し、安心して訪問できる地域と認識してもらうため、九州地方知事会（全ての県から知事又は

副知事が参加)、九州運輸局と共同で訪問団を派遣しました。ソウル市内で韓国のメディアに対して記者会見を行い、「九州安全・安心PR」を行った後、韓国政府外交通商部、文化体育観光部の表敬訪問をはじめ、旅行会社を訪問し九州の現状を伝えました。

併せて、釜山・ソウル市内で九州各県の観光関係者と韓国の旅行会社関係者と連携し、街頭キャンペーンによる「九州の安全・安心PR」を行ったところ、韓国の方からあたたかい応援メッセージを多数いただきました。記者会見及び街頭キャンペーンの様子は、メディアを通じ韓国全域に報道され、九州一丸となった取り組みを強くアピールすることが出来ました。



○ シンガポール・メディアを招請 (5月17日～22日:福岡、佐賀、長崎、熊本、大分)

シンガポールの旅行会社 (Commonwealth Travel Service Corporation Pte Ltd) と連携し、メディア (ラジオ局1社、新聞社1社、雑誌3社) と旅行会社1社 計6名を招請し、九州の現状を取材、九州が安心して旅行できる地域であることを取材してもらいました。各県の観光素材取材のほか、露地栽培の農家、大学教授 (放射線分野の専門家) への取材などを通じて、九州の安全性と豊かな観光素材を効果的に発信することができました。



なお、今回のシンガポール招請は、同市場対策としては東日本大震災後初めてであり、機構は費用面の支援も行いました。

○ タイ・メディアを招請 (5月19日～23日:福岡、鹿児島、熊本、大分)

タイ航空と連携してタイのメディア (テレビ局1社、ラジオ局1社) 及び旅行会社6社の計10名を招請し、九州の現状と安心して旅行できる地域であることを取材されました。

特にテレビ局の映像による訴求と、旅行会社による具体的な商品造成のため各県の観光素材のほか、3月12日に全線開業した九州新幹線鹿児島ルートなどを取材してもらい、効果的に発信することができました。

なお、今回のタイ招請は、同市場対策としては東日本大震災後初めてであり、機構は費用面の支援も行いました。



○ 台湾鉄路工会インセンティブツアーを催行 (5月23日～28日:福岡、大分、熊本)

東日本大震災の影響により、台湾のほとんどの訪日ツアーがキャンセルされる中、在福岡のランド社が事態の打開を図るため、台湾鉄路工会主催による大型インセンティブツアーを企画し、ツアーには118名が参加しました。当ツアーは、宿泊先の自治体 (北九州市、別府市) から観光には全く影響がない旨の文書を取り付け、主催者の台湾鉄路工会に提出するとともに、台湾側の旅行会社には、日本への旅行は日本全体の応援につながることを強く訴えたことで催行が実現したものです。



当機構は、九州運輸局及び福岡県と連携し、福岡空港到着ロビーにおいて横断幕を掲げ出迎えを行うとともに、ツアー参加者全員に九州マップ等を贈呈し歓迎の意を伝えました。

○ タイ・テレビ局を招請（5月24日～31日：九州全県）

タイを中心とするアジア圏23か国1千万戸世帯に向けて旅行情報を発信する大型有線テレビ会社（Travel Station）の10名を九州運輸局と共同で招請し、九州の安全性、九州の観光素材を発信しました。

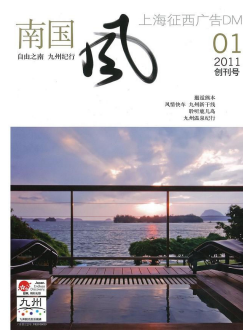
特に今回の招請では、九州全県の観光地や食文化の取材を通じて、九州の豊富な観光資源を紹介するとともに、交通機関や宿泊施設、観光施設等が通常どおり運営されていることを発信しました。また、九州運輸局及び当機構での取材を通じて、各々の事業内容や取組みもアピールすることができました。



○ 中国・情報誌「南国風」制作を支援（5月25日：中国各地）

中国において発行された九州専門情報誌「南国風（なんごくかぜ）」（発行会社：上海征西广告有限公司）に対し、製作費や素材提供等の支援を行いました。同誌は中国における九州情報の発信を目的に創刊されたフリーペーパーであり、上海・北京・広州などの旅行会社や富裕層生活圏に配布されています。

今年5月25日に発行された第1号（5万部／発行、68ページで構成）では、九州の温泉特集のほか、福岡、熊本、鹿児島等の情報が紹介されており、中国の富裕層向けに九州各地の観光情報が広く伝わることを期待されます。2011年度は第4号まで発行予定であり、第2号以降はVJ事業として取材・制作を支援しながら、九州の旬の情報を継続発信することとしています。



○ 中国・深セン市メディア・旅行会社等招請を支援（6月1日～3日：九州各地）

訪日旅行の有力市場である広東省深セン市からの観光客誘致を目的に、日本国内のランドオペレーターが実施した深セン市マスメディア及び旅行会社等の招請について、九州取材に関わる経費等について支援を行いました。メディア一行17名はフェリーで神戸に入り大阪経由で、別府、熊本城、ハウステンボスなどを取材しました。

取材後、メディアからは「九州は東日本大震災の影響は全く無く、閑静で景観に優れた地域」との評価をもらいました。

今後も深セン市への九州観光PR等を強化し、九州に多数の観光客誘致を図ることにしています。



○ 香港／シンガポール・モータースポーツ関連メディアを招請（6月2日～8日：九州各地）

オートポリス（大分県日田市）での2輪／4輪の日本最高峰レースの開催（6月4日～5日）に合わせて、香港テレビ局（TVB）取材スタッフ4名及びシンガポールのモータースポーツジャーナリスト1名を招請し、レース関連の他、オートポリス周辺の観光地として、久留米（千光寺、櫛屋敷）、日田（豆田町）、菊池溪谷、熊本城、阿蘇、くじゅう花公園等を取材してもらいました。

香港では、TVBで毎週土曜日の午後18時に放映される75分番組「スポーツワールド」の中で、7月上旬から3回に分けて毎週10分ずつ、九州が紹介される予定です。また、シンガポ



ールでは、新聞（My paper）及び専門誌（Wheels Asia、9tro、Rev、Best Car Singapore）等活字媒体で九州情報が発信されることになっています。

○ 韓国「ビジット・ジャパン韓国商談会 2011ソウル」に参加（6月3日：ソウル特別市）

J N T O（日本政府観光局）主催の「ビジット・ジャパン韓国商談会 2011ソウル」に参加しました。

第一部の韓国旅行市場説明会では、東日本大震災等の影響を踏まえた韓国の訪日旅行市場動向について、J N T Oソウル事務所の吉田所長、訪日旅行社最大手ハナツアーのグオン本部長より説明を行いました。

第二部の商談会では、日本全国より参加した観光施設・団体と、現地の旅行会社やランドオペレーター等の間で、東日本大震災後の対策等を中心に情報交換を行いました。

今回は、各旅行会社から観光の厳しい状況を伺いながら、いち早く訪日旅行者の回復に取り組む有意義な商談となり、これを契機に韓国からの九州旅行の回復が期待されます。

○ 香港・Apple Daily紙北部九州取材を支援（6月5日～8日）

訪日旅行の有力市場である香港からの観光客誘致を目的に、香港で第2位の発行部数を誇る大衆日刊紙「Apple Daily」のハウステンボス、博多ラーメンの取材について、同紙の要請により、記者1名分の九州内移動費及び宿泊費負担の支援を行いました。

今回の取材は、報道のタイミングが香港から日本への渡航警報の解除時期（6月10日）の直近であったことから、香港市民へのPRでより一層の効果が得られたものと考えています。



ハウステンボス

○ 韓国・メディアを招請（6月6日～10日、13日～19日：九州各県）

東日本大震災による訪日観光客の大幅減少対策として、韓国の全国放送局であるSBSの取材スタッフを招請し、九州各地の観光地の紹介番組を制作・放映する「ビジット・ジャパン情報発信」を行いました。

今回取材した観光地は、毎週土曜日朝の放送番組「SBS土曜モーニングワイド」コーナーで6月11日から7週連続で紹介されており、九州が安心して旅行できる地域であることを韓国全土でPRしました。

取材先は九州全県にわたり、第一班（4名）は鹿児島・宮崎・熊本各県、第二班（4名）は大分・佐賀・長崎・福岡各県を取材しました。取材スタッフからは九州の安全性と魅力について太鼓判をもらっており、韓国の方々に同番組を通じて九州の安全性と魅力を再度認識していただくとともに、訪日観光ブームへのきっかけとなることを期待されます。

○ 中国「九州観光プロモーション in 上海・北京」を実施（6月9日～10日：上海市、北京市）

東日本大震災後の風評被害払拭等のため、九州地方知事会・九州運輸局と共同で中国を訪問して「九州観光プロモーション in 上海・北京」を実施しました。上海市で行ったプレゼンテーションでは、上海市旅游局長の参加のもと、九州運輸局長、福岡県知事、九州観光推進機構会長をはじめとする各県代表から、現地メディア・旅行会社等の参加者約80名に九州が通常どおり観光を楽しんでいただける状況を説明し、九州観光のPRを行いました。終了後、上海



市政府を表敬訪問し、九州と上海市との交流拡大と九州へのより多くの観光客来訪を上海市長に要請しました。

北京市においても、プレゼンテーションと表敬訪問を行い、九州運輸局長、長崎県知事、各県代表から、現地メディア・旅行会社等参加者70名に九州観光の状況説明を行ったほか、訪問先の国家旅游局副局長及び北京市長から、中国、九州のさらなる交流拡大の力強い言葉をいただきました。

今回の九州一丸となつての公式訪問を機に、中国から九州への送客再開の動きが加速し、早期に訪日観光が回復することが期待されます。

○ 中国「日中観光交流促進会」に参加（6月16日：北京市）

観光庁とJNTO（日本政府観光局）の主催により、北京の旅行会社等を対象とした「日中観光交流促進会」に参加しました。

同交流促進会では、事前にマッチングされた中国の旅行会社6社と順次面談し、九州の観光情報提供や九州旅行商品の造成販売状況について情報交換等を行いました。同交流促進会に先立ち午前中に行われた大手旅行会社への表敬訪問では、中国で最大規模を誇る「中国康輝旅行社」「中国国際旅行社総社」を西日本の各自治体とともに、訪日市場の現状や今後の九州への観光客誘致の展望等について意見交換を行いました。今後も、観光庁やJNTOの協力を得ながら、全国が一体となったPR活動に参加して、九州の認知度向上や旅行商品造成促進等を図っていくことにしています。



○ 中国・山東省メディア・旅行会社九州視察取材を支援（6月18日～21日：九州各地）

九州との間に直行便を有する中国山東省からの誘客を目的に、青島市の山東省メディア、旅行会社による九州視察・取材にかかる経費等について支援を行いました。

メディア一行14名は、青島からのフェリーで下関に到着後九州に入り、由布院、鳥栖、太宰府等で取材と視察を行いました。山東省は青島を起点とする飛行機・フェリーの交通手段があり、今後も多くの観光客誘致が期待できるため、引き続き積極的なPR活動を行うことにしています。

○ 中国・広東省メディアを招請（6月19日～24日：九州各地）

九州への多数の誘客実績がある広東省深セン市等から、地元の有力テレビ局と新聞社等の一行8名を招請し、九州各地で観光地等の取材が行われました。メディア一行は、フェニックスシーガイアリゾート、仙巖園、熊本城、嬉野温泉、太宰府天満宮など主要な観光地を巡ったほか、小林市の農家の新鮮なきゅうりの生育状況を撮影するなど、風評払拭につながる九州安全面に配慮した取材となりました。



また、今回参加したテレビ局は、取材期間中、九州からの生中継を行っており、深セン市を中心とする視聴者に九州が通常どおり観光を楽しんでいただける様子を強く印象付けることができました。

○ 台湾・4大紙北部九州広告掲出を支援（6月22日～8月16日）

（社）長崎県観光連盟及び（社）熊本県観光連盟が連携して企画・実施する台湾四大紙（中国時報、自由時報、聯合報、蘋果日報）への北部九州の広告掲出について、費用の一部負担による支援を行いました。広告開始のタイミングが、台湾から日本への渡航警報の解除時期（6月13日）のすぐ後となったことから、より一層の効果が得られているものと考えられます。



○ 韓国・大手映画ロケを支援（6月20日～7月16日：福岡、佐賀、長崎、熊本）

韓国大手映画制作会社「TEWON ENTERTAINMENT」が九州を舞台に制作する映画ロケを行い、費用面等で支援を行いました。このロケは、福岡、佐賀、長崎、熊本各県で実施し、撮影の多くは観光地で行われました。映画は、韓国で大ヒットの映画「家門の栄光シリーズ」最新作として、本年9月に韓国全土で放映されることになっており、九州の知名度向上、九州観光情報発信で大きな効果が期待されます。

○ 中国・大連市メディア等招請を支援（7月6日～10日：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分）

九州内の旅行会社と大連市の旅行会社・航空会社等が招請した大連市のメディア（テレビ局・新聞）等が九州取材を行い、費用面等で支援を行いました。メディア一行は有田・雲仙・阿蘇・別府等、北部九州の観光地を巡り、精力的に取材を行っていました。



また、メディアに同行した旅行会社は、帰国後、早々に九州ツアーを造成しており、メディアによるPRと相まって九州への誘客に大きな効果が期待されます。大連市は九州と直行便で結ばれており、今後も多数の観光客誘致が期待できるため、引き続き同市での観光PRに取り組んでいくことにしています。

○ 韓国「プサン商談会」を開催（7月7日：釜山広域市）

旅行会社やランド社を対象にした「プサン商談会」を開催し、九州の観光関係者とプサンの旅行会社等との商談を支援しました。今回は東日本大震災後初めての開催であり、開会式は在釜山日本領事館の余田総領事が来賓挨拶を行いました。日本60社、釜山50社を超える参加があり、今後の訪日観光動向確認や旅行商品造成等で積極的な商談が行われるなど大盛況となりました。



○ タイ・メディアを招請（7月7日～10日：福岡、長崎、大分）

タイのテレビ「WORLD 360 DEGREES」関係者等5名を、当機構と福岡、長崎、大分の3県が費用を分担して招請しました。この招請では、福岡、長崎、大分各県の観光地等の取材が行われたため、訪日旅行の有望市場であるタイでの九州の知名度向上に寄与するものと期待されます。

○ 中国・遼寧省メディアを招請（7月9日～16日：九州各地）

九州運輸局と共同で遼寧省瀋陽市のテレビ局を招請し、九州各地で観光地等の取材が行われました。今

回の行程は九州全県を回るものであり、指宿の砂蒸し温泉、島原半島のイルカウォッチング、別府の夜の街歩きなど、各地の特徴ある観光素材の取材となりました。

また、メディア滞在中、博多祇園山笠のクライマックスである「追い山」が行われ、九州を代表する祭の様子が撮影されました。取材内容は、中国全国で視聴できる遼寧テレビ局が約半年にわたって放映する予定であり、九州の知名度向上に大きな効果が期待されます。



○ 中国・上海市及び福建省メディア招請を支援（7月10日～15日：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分）

観光庁とJNTO（日本政府観光局）が主催した上海市及び福建省のメディア（新聞及びラジオ局）の招請について、取材先との連絡調整、訪問各県への情報提供などの支援を行いました。メディア一行は福岡から入国し、JR博多シティ、吉野ヶ里公園、ハウステンボス、黒川温泉、別府温泉等を順次取材しました。

今後も観光庁・JNTO等と連携をとりながらメディア招請などを通じて、中国市場における九州の効果的なPRを行っていくことにしています。



○ 香港・Weekend weekly 誌付録に広告出稿（7月18日：香港）

3月の東日本大震災以降、香港政府が発令していた九州を含む日本各地への渡航警報の6月10日解除のタイミングを捉えて、香港の2大旅行雑誌の一つであり、旅行者に大きな影響力を持つ「新假期 Weekend Weekly」が、日本を応援するため、7月18日発行号の別冊付録「日本50新事」を作成しました。

九州各県からは、夏場のトピックを提供してもらい、同別冊において4ページにわたる広告出稿を行いました。



○ 韓国「ロハス九州」関連メディアを招請（7月20日～23日：鹿児島、熊本、福岡）

韓国における20～30代の富裕層女性を対象に、ワンランク上のラグジュアリーな九州観光旅行ブランド「ロハス九州」の提案を行うため、2011年度は「映像と音で奏でる九州」をテーマに、韓国より歌手のキム・ヨヒさんを招請しました。

キム・ヨヒさんには、ファッション性の高い九州のオリジナル番組の制作と同時に、「ロハス九州」をテーマとして、今回の旅を通じて感じた九州をイメージして作曲をしていただきました。今後、韓国のケーブルテレビやYouTube、雑誌やフリーペーパーなどでPRを行い、東日本大震災発生により大きな影響を受けている韓



国人観光客の回復を目指します。

○ 中国・フリーペーパー「南国風」を招請（7月25日～28日：熊本、大分、宮崎）

国土交通省九州運輸局との共催で、上海征西広告が中国で発行している九州専門情報誌「南国風」の記者等2名を招請し、各地のテーマパークを中心に取材が行われました。今回の取材は熊本のウルトラマンランド、大分のハーモニーランド、宮崎のサンメ



ッセ日南など、親子で楽しめる施設が中心となりました。取材内容は8、9月頃に発行される第2号に掲載予定であり、今後、九州が家族旅行の目的地として注目を集めることが期待されます。

○ 中国・長江デルタ地域メディア及び旅行会社等を招請（7月26日～30日：福岡、熊本、宮崎、鹿児島）

国土交通省九州運輸局及び九州旅客鉄道と共催で、上海市旅游局、中国東方航空、上海周辺地域の主要旅行会社、メディア等総勢30名を招請し、九州各地の取材等が行われました。メディア一行は阿蘇・高千穂・桜島など主に南九州の観光施設を取材したほか、今年3月に全線開業した九州新幹線や各地の観光列車に乗車し、九州の豊富な観光資源を様々な角度から体験しました。



上海市を中心とした長江デルタ地域は、九州と近距離であり大市場であることから、今後も各関係機関等と連携し、同地域における九州の認知度向上、観光客誘致を積極的に図ることにしています。

○ 中国「孫文と九州」関連メディアを招請（7月28日～8月2日：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分）

今年は中国の辛亥革命100周年にあたることから、国土交通省九州運輸局と共催で中国（北京・上海・広州）、香港の主要テレビ局やポータルサイトを招請し、孫文とゆかりのある地や人物を中心に、九州各地で取材が行われました。



孫文ゆかりの地としては、福岡市の崇福寺（孫文を支援した玄洋社の墓地）、北九州市のいのちのたび博物館（孫文の揮毫を所蔵）、長崎市の福建会館（孫文が訪問）、荒尾市の宮崎兄弟資料館（宮崎滔天の生家）、南阿蘇村の小山旅館（孫文が逗留）等を紹介しました。

また、ゆかりの人物として、当時孫文を支援した宮崎滔天及び梅屋庄吉の子孫の方々へのインタビューも行われました。このほか、滞在中に福岡市内で開催された辛亥革命100周年記念フォーラム取材し、パネリストとして参加した福岡、長崎、熊本各県知事からも辛亥革命100周年にちなんだメッセージをいただきました。

取材内容は、今年10月頃に各放送局において放映される予定であり、各放送局とも広範な放送ネットワークを有していることから、孫文ゆかりの地として九州が中国・香港を中心に広く注目を集めることが期待されます。

なお、今回の取材では、企画段階から西日本新聞及び大公網 Japan Online（香港の大手ポータルサイトの日本法人）にご協力いただきました。

○ 香港旅行会社緊急支援で誘客（7月：香港）

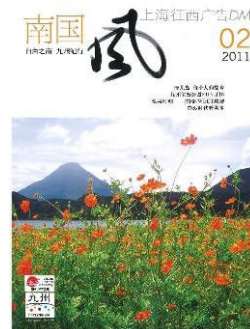
3月中旬以降、東日本大震災の影響により香港の大多数の旅行会社が訪日団体旅行の募集をとりやめる中、4月中旬から訪日旅行商品の販売を敢行する香港旅行会社2社に対し、4月末に緊急支援措置として5～6月の九州への誘客実績に応じた助成を行うことを決定し、このほど、対象期間終了後の実績報告で、誘客目標数600人を大きく上回ったことが判明しました。



これは、未曾有の逆境の中、両社の熱心な販売努力により実現したものであり、警報解除後の各旅行会社間の競争本格化もあり、香港から九州への夏場以降の入国者増の呼び水となることが期待されます。

○ 中国・フリーペーパー「南国風」を招請（8月1日～5日：九州各地）

国土交通省九州運輸局との共催で、上海征西広告が中国で発行しているフリーペーパー・九州専門情報誌「南国風」の記者等2名を招請し、「鉄道の旅」をテーマとする取材が佐賀県の武雄温泉、長崎県の西海パールリゾート、島原市内など、西九州を中心に行われました。今回の取材内容は8月発行の第2号に掲載されており、中国において鉄道を利用した九州旅行の魅力が伝わることを期待されます。



○ 台湾・メディア「MOOK出版」を招請（8月1日～8月18日：九州各地）

台湾で世界各地の旅行ガイドブックを発行しているMOOK出版から記者、カメラマン各1名を招請し、九州7県の観光地と併せて、新幹線をはじめ「SL人吉」「いさぶろう・しんぺい」「隼人の風」「海幸山幸」「指宿のたまて箱」等の観光列車や西鉄大牟田線、肥薩おれんじ鉄道体験乗車など、18日間の日程で取材が行われました。

今回は、福岡、柳川、太宰府、門司港（以上福岡県）、吉野ヶ里、有田焼、肥前夢街道、祐徳稲荷（同佐賀県）、ハウステンボス、九十九島、長崎、雲仙（同長崎県）、熊本、通潤橋、阿蘇火口、黒川温泉（同熊本県）、日田、湯布院、別府、杵築（同大分県）、高千穂峡、日南海岸、飫肥、青島（同宮崎県）、霧島、指宿、屋久島、鹿児島（同鹿児島県）等を訪問し、多地域にわたる取材となりました。

取材内容は、MOOK出版がこれまで北海道、東京、東北、中部北陸、京阪神で発行した「ぶらぶら遊び」シリーズとして、今年10月発行予定の九州版に掲載される予定です。



○ 中国・青島市メディアを招請（8月7日～12日：九州各地）

中国・山東省青島市のメディア（テレビ、ラジオ、新聞）等の8名を招請し、九州各地で取材が行われました。メディア一行は、有田・雲仙・阿蘇・別府・門司など北部九州を代表する観光地を精力的に取材し、独特の景観や文化に強い関心を示されました。

青島と福岡間の直行便のほか、青島と下関間にはフェリーの定期航路もあり、今後、青島市現地で九州の観光情報発信は、九州への観光客誘致増につながることを期待されます。



○ 中国・旅行会社等を訪問セールス（8月8日～14日：瀋陽市、青島市）

遼寧省瀋陽市及び山東省青島市の現地旅行会社や関係機関等への訪問セールスを行いました。旅行会社からは、九州のツアー商品造成での課題（他地域に比べ料金が割高になることなど）の指摘があり、今後、両地域から九州への観光客誘致を行うための検討に役立つ材料となりました。瀋陽市、青島市ともに九州との間に直行便があることなどから、今後も引き続き、両地域からの観光客誘致を図っていきます。

○ 韓国・旅行会社を訪問セールス（8月9日～11日：ソウル特別市）

東日本震災後の韓国の旅行会社への訪日旅行対策の進捗状況確認と、9月以降の対策の打ち合わせを目的に、ソウル特別市の旅行会社とランド会社への訪問セールスを行いました。各旅行会社からは現状と秋口以降の予約状況を伺い、今後の訪日旅行者の推進について協議を行いました。韓国の旅行会社は、九州向けの航空チャーターツアーの催行など、様々な対策を実施しており、今秋の旅行シーズンを迎え九州旅行商品の販売増が期待されます。

○ 台湾・テレビ局福岡取材を支援（8月20日～26日：福岡市、北九州市）

台湾のテレビ局TVBSのニュースチャンネルのニュース番組「10点不一樣」の福岡県内取材について、(社)日本観光振興協会から当機構への協力依頼があり、同協会と連携して、取材希望先との連絡調整及び当日アテンド等人的支援を行いました。

TVBSは、台湾で最初に開設された衛星放送チャンネルであり、台湾との直行便がある福岡で現在流行の、かつ台湾の方々の興味を惹きそうなテーマで、日本への観光を促進する報道特集番組を制作するため、王貞治ベースボールミュージアム、LinQ（地元福岡で活動するアイドルグループ）、北九州・工場萌えツアー（洞海湾クルーズ）、福ぶら（産学行政連携のゲームプロジェクトで、ユーザーが好みの観光テーマを選択し、ゲームの進行に合わせて現地を回る仕組み）等の取材が行われました。今回の取材は今年9月中・下旬のニュース番組で放映される予定です。



○ 韓国・済州島オルレと業務協定を締結（8月21日～23日：済州特別自治道）

トレッキング事業の中の新規取り組みとして、「九州オルレ」ブランドを構築するため、済州島を訪問し、社団法人済州オルレと業務協定を締結しました。これは九州各県でのオルレ（ウォーキング）コースを商品化し、新たな九州の魅力として発信していく取り組みであり、今回の訪問では、済州オルレ事務局同行により3つのコースを視察しました。

韓国では、オルレが社会現象になるほど人気があり、多彩な景観を楽しめるコースは「九州オルレ」コース造成に大変参考になるものでした。今後、九州でも魅力あるコースの造成を行い、多くの観光客誘致を行っていきます。



○ 台湾「南九州パンフレット・ポスター」製作を支援（8月31日：台湾）

台湾における南九州の一層の認知度向上を図るため、財団法人みやざき観光コンベンション協会及び社団法人鹿児島県観光連盟が中華航空等と連携して、現地の企画会社に南九州パンフレット10,000部とポスター100部を製作委託し、8月に完成しました。製作では機構が費用の一部を支援することにしており、これらのパンフレット、ポスターは、今年9月下旬～10月下旬に台中と台北の日系百貨店で開催される日本物産展に合わせて行う九州の観光PRで活用する予定です。



○ 韓国「ビジット・ジャパン韓国商談会2011釜山」に参加（9月1日：釜山広域市）

JNTO（日本政府観光局）主催による「ビジット・ジャパン韓国商談会 2011 釜山」が行われ、日本側から当機構など32の観光関係機関・企業、釜山側は43の旅行会社が参加しました。これは6月にソウル特別市で開催された商談会を釜山広域市でも行うものであり、当機構は釜山の旅行会社に対し九州観光の魅力について説明を行うとともに、現在の予約状況や今後の予約動向の確認を行い、訪日旅行対策について協議しました。



今後も現地で九州観光情報の発信を強化することにより、より多くの観光客誘致が期待できます。

○ シンガポール・メディアを招請（9月4日～18日：シンガポール）

シンガポールで唯一の民放メディア会社「Media Corp Singapore」の取材班7名を招請し、魅力的でユニークな九州の鉄道をメインに九州の観光地の取材を行いました。シンガポールではあまり知られていない九州の鉄道を効果的にアピールできました。



また、民放（テレビ局）の「人とのふれあい」を重視した番組制作は、九州の温かい「おもてなしの心」と調和し、より効果的なPRが期待されます。今回の取材は10月下旬の2週にわたって放送されます。（火曜日 20:00～21:00）

○ 台湾・イベント開催に合わせた九州観光PRを実施（9月28日～10月11日：台中市）

台中の日系の百貨店（廣三崇光百貨）主催による九州を中心とする日本の物産展において、九州観光をPRするブースを設置しました。会場では、九州の楽しい列車の旅を掲載したチラシの配布、タブレット型PCを用いた観光説明、ジャンケン大会等によるノベルティの提供、九州観光のDVD上映などを行い、一般消費者に向けた九州観光情報を発信しました。



また、10月1日～3日は、熊本県山鹿市の山鹿灯籠踊り保存会の5名が踊りを披露し、九州により一層の親近感を持っていただくとともに、九州のイメージ向上に寄与しました。

○ 韓国・パワーブロガーを招請（10月4日：九州各地）

韓国では旅行情報はブログなどのインターネットを通じて得られる傾向があるため、ポータルサイトNAVERの人気ブロガーであるパワーブロガーを招請し、九州各地（九州7県）の取材を行っていただきました。各パワーブロガーはグルメ、温泉、夫婦旅行、日本酒、ショッピングなどのテーマに沿って、九州ならではの旅を体験しました。帰国後は、自らのブログに取材内容を掲載し、九州のイメージをPRしてもらいます。なお、各ブロガーの行程は、当機構のホームページで個人旅行者向けのモデルルートとして掲載する予定です。



○ 中国・西日本広域観光ルートをテーマにメディアを招請（10月11日～13日：福岡、佐賀、長崎、大分）

中国市場に向けて関西～中国～九州にかけての西日本広域観光ルートを紹介するため、近畿運輸局等と連携して中国の有力旅行雑誌等5社を招請し、取材が行われました。メディア一行は近畿・中国地域で取材を行った後、九州を訪れて太宰府天満宮・有田・長崎市内・由布院など、九州独自の歴史と文化が感じられる観光地を精力的に取材しました。また、近畿・中国と九州を結ぶ鉄道やフェリーについても取材が行われたことから、九州から近畿までの広域的な観光ルートについて具体的な情報が発信されるものと期待されます。このような広域観光ルートについては、一定のニーズが見込まれるため、今後も九州外の各地域と連携しながら、積極的なPRを行っていきます。



○ 台湾・イベント開催に合わせた九州観光をPR（10月12日～24日：台北市）

先月の台中市での観光PRに引き続き、台北市の日系の百貨店（太平洋崇光百貨）主催の日本物産展において、九州観光のPRブースを設置し、九州の楽しい列車の旅を掲載したチラシの配布、タブレット型PCを用いた観光説明、ジャンケン大会等によるノベルティの提供、九州観光のDVD上映などを行い、一般消費者に向けた九州観光情報を発信しました。



また、10月14日、15日は、宮崎県日向市「橘ひよっこ踊り保存会」の7名が踊りを披露し、会場では大きな盛り上がりが見られました。この踊りの披露は、台中市で披露した山鹿灯籠踊りとともに、台湾で九州により一層親近感を持っていただく機会となり、九州の楽しいイメージの向上に寄与することができました。

○ 韓国「ビジット・ジャパン九州観光説明会・商談会」を開催（10月20日：ソウル特別市）

国土交通省九州運輸局との共催により、現地旅行会社を対象に「ビジット・ジャパン九州観光説明会・商談会2011」を開催しました。日本側からは九州各県より観光関係者72団体、116名が参加し、韓国の旅行社やマスコミ99社166名に九州の魅力をPRしました。



説明会・商談会では、富裕層向けのワンランク上のブランド「ロハス九州」、九州の豊富な観光資源を取り入れたウォーキングコース「九州オルレ」、人気の高まっている「九州B級グルメ」などをアピールし、九州への誘客促進を図りました。

○ 中国・九州情報誌「南国風」を招請（10月21日～24日、10月30日～11月3日：九州各地）

中国の九州専門情報誌「南国風」を発行する上海征西広告の記者及びカメラマンを招請し、今年12月発行予定の第3号の特集記事の取材を行いました。

今回は、中国の春節時期の九州旅行需要喚起を図るため、一つは「九州の旅館」を取材テーマとして、各地の旅館の女将さんへのインタビュー等を行い、おもてなしの心が伝わる内容としました。



また、もう一つは「鉄道の旅」をテーマに、南九州を走る観光列車の取材を行い、乗車すること自体を楽しめる九州の個性的な列車をPRします。今後も同誌を通じた中国における九州の認知度向上に取り組むことにしています。

○ 香港・旅行写真家「九州情濃」を発行（10月22日）

2009年秋に九州各地を取材した香港の旅行写真家Celia Chengさんが、満を持してその取材成果を単行本（知出版、HK\$78）として発表しました。本人の「C遊欄度」シリーズの7作目であり、日本紹介は飛騨、中部、四国、東北、北海道に次ぐ6作目です。

写真やイラストが豊富で全体的に読みやすく、手作り感、親近感があり、九州の認知度、好感度の向上に寄与するものと期待されます。



○ 台湾・メディア(テレビ番組)を招請（10月22日～27日:九州各地）

台湾内外のローカルグルメを紹介して人気を博しているTVBSのテレビ番組『食尚玩家』の取材陣が、湯布院、別府、嬉野、肥前夢街道、長崎、柳川、太宰府、福岡など北部九州で撮影収録を行いました。同番組は、バラエティ風に仕立てた紹介で好評を博しており、その司会者（陳秉立氏、謝炘昊氏）の2人は、九州入りの前日に台湾最優秀最人気司会者賞を授与され、九州は受賞後初の取材となりました。

今回の撮影は、来年2月に2回に分けて放送予定であり、台湾で注目されている司会とあって九州への関心がさらに高まり、九州観光の一層のPR効果が期待されます。



○ 香港・日本文化協会(Japan Society)イベントを活用して情報発信（10月23日:香港）

現地で高い評価の日本語講座を開設する香港日本文化協会（Japan Society；2011年度外務大臣表彰受章）は、在香港日本総領事館、JNTO香港、国際交流基金及び当機構等からの後援、日本航空、日清製粉、味珍味及び李錦記等からの協賛により、九龍灣国際展貿中心（International Trade & Exhibition Centre）を会場として「全香港日本事情クイズ大会2011」を開催しました。参加228チーム（1チームは3人）約700人のうち、全員回答（60問）で予選を勝ち抜いた5チームが決勝に進み、ステージ上で決勝戦（50問）に挑みました。



クイズは、阿蘇や別府などの観光地、西郷隆盛、梅屋庄吉など九州にゆかりのある人物についての出題があり、日本に強い興味・関心を持つ香港の方々に九州の魅力を直接伝えることができました。合わせて、農家民泊、果物狩りをテーマにしたチラシの参加者約800名への配布も行いました。

○ 台湾・MOOK出版九州ガイドブック発行（10月）

MOOK出版が8月1日～18日にかけて九州を精力的に取材し、好評の日本旅行のガイドブックシリ

ーズ「ぶらぶら遊び」の九州版を台湾で10月18日に発売しました。同ガイドブックには、九州の列車の旅、自然、温泉をテーマにした特集ページが掲載されており、台湾の一般読者の興味・関心を高めることが期待されます。

MOOK出版は今年11月開催の台北国際旅行博（ITF2011）でもブースを出展して、同ガイドブックを販売する予定です。価格はNT\$350（10月末までは特別価格NT\$260）。



○ タイ「トラベラーズコンパニオン」誌を招請（11月1日～7日：福岡、大分、鹿児島）

タイで最も歴史ある旅行月刊誌「トラベラーズコンパニオン」誌の取材班を招請し、鹿児島県の「第60回おはら祭り」、大分県の「竹宵」、臼杵市、杵築市など、情緒感あふれる九州の風景の取材が行われました。記事は2012年1月と2月の計2回掲載される予定であり、同年2月下旬にバンコクで開催される旅行博「Thai International Travel Fair 2012」出展に向けて雑誌を活用した情報発信を行い、九州への誘客拡大を図ります。



○ 中国「九州インバウンドビジネスフォーラム2011」を開催（11月4日～9日：九州各地）

訪日旅行に実績のある中国各都市（上海・北京・広州・深セン・青島・大連等）の有力旅行会社及びメディア計50社を招請し、九州各地の視察旅行及び観光説明会・商談会を内容とする「九州インバウンドビジネスフォーラム2011」を実施しました。

視察は中国側の参加者が地域ごとに5コースに分かれて、温泉・お祭・列車などのテーマで九州各地の観光地を訪れ、悪天候にもかかわらず精力的に各地を回りました。今回の視察を契機に、旅行商品の造成が増えることが期待されます。

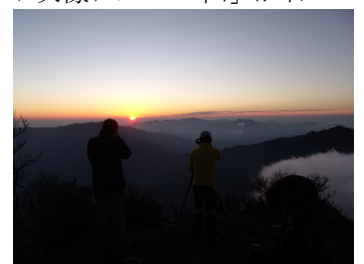


また、8日に福岡市内で開催した観光説明会・商談会では、新たに就航する春秋航空の佐賀・上海路線やハウステンボスが運営する長崎・上海航路などでアクセスがより便利になった九州をPRしたほか、中国の旅行会社と九州の参加者約130名が活発な商談、情報交換を行いました。このほか、会場では九州の物産をPRするブースを併設し、観光及び物産面から中国側に向けて強く九州を訴求することができました。

○ 韓国「KBS2TV映像アルバム山」が九州を取材（11月11日～14日：福岡、熊本、大分）

韓国で日曜日の朝、国内外の山を紹介する番組として人気がある「KBS2TV映像アルバム山」が日本のトレッキングの情報を発信するため、日本100名山の一つである祖母山の取材を行いました。取材期間は好天に恵まれ、祖母山のほか、原尻の滝、高千穂峡、阿蘇外輪山、菊池渓谷で撮影が行われ、登山以外での九州観光の魅力をも十分にPRすることができました。

登山人口が約1000万人と言われている韓国では、年々登山やトレッキングを目的にした旅行が増えてきており、今後も山と観光地を連動させた九州の魅力のPRを行います。



○ 韓国・インターネット系旅行会社を招請（11月16日～11月20日：九州各地）

ソウルを中心としたインターネット系旅行会社のオペレーターを招請し、個人旅行向けの九州観光を体験してもらいました。参加者は各自で作成した九州各县を巡る観光スケジュールに沿って、公共交通機関を利用して移動し、事前に調査したご当地グルメや観光地・温泉を楽しむ個人旅行を体験しました。この実体験は、今後の販売促進に役立ててもらえる機会となり、年々増加している個人旅行の誘致につながるものとみています。

○ 香港・旅行会社等を招請（11月21日～11月25日：九州各地）

香港から九州への定期便を有するキャセイパシフィック航空及びドラゴン航空の指定旅行会社8社及び香港の一般紙等メディア3社を、団体旅行向けコース及びF I T向けコースの2コースに分けて招請しました。今回の招請では、東京・大阪・京都を訪問済みの訪日旅行リピーターを増やすため、他地域との差別化を図りました。

団体旅行向けは、別府、阿蘇、指宿等に加え九州新幹線と果物狩り、F I T向けにはハウステンボス、武雄温泉、熊本城等に加え、「あそぼーい！」と農家民泊を体験していただき、参加者には好評でした。



○ 中国・有力メディア(ファッション誌)幹部等を招請（12月3日～6日鹿児島、熊本、福岡）

九州内の関係自治体及びJ R九州と連携して、中国の「桦樹中国」グループの幹部を招請し、九州の観光地の視察を行いました。一行は霧島、指宿、熊本、福岡等を訪問し、九州が誇る観光資源やおもてなしに触れて強い感銘を受けていました。

同社は中国において「ELLE」をはじめとする人気ファッション誌等を出版し、強い情報発信力を有するとともに、会員向けの旅行販売促進にも実績があることから、今後同社と連携して中国での九州観光PRを行い、認知度向上と観光客の誘致に努めていきます。



○ タイ・旅行会社を招請（12月5日～11日：福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島）

訪日ツアー販売に力を入れているタイの旅行会社8社を招請し、九州の観光地を紹介しました。これまでタイ市場では、北部九州を廻るツアーのみの販売が多かったため、今回の招請では南部九州を含めた観光地を巡っていただきました。初めて南九州を訪れたという方も多く、現地の魅力を肌で感じてもらい、「今後、九州の旅行商品造成に積極的に取り組みたい」との力強いコメントがありました。これを契機に、九州の新規商品造成をタイの旅行各社に働きかけ、誘客拡大を図っていきます。



○ 台湾・エバー航空福岡便新機材就航到着便を出迎え（12月7日：福岡）

エバー航空は、台北福岡線にサンリオ社と提携し、機体にハローキティを描いた最新鋭機エアバス330-300型機（309座席）を導入したため、当機構は、九州運輸局、福岡県、福岡市とともに、就航日の到着便を、福岡空港国際線ターミナル1階ロビーで横断幕を掲げて出迎えました。今回の歓迎は台湾

からのお客様に大変喜ばれるとともに、一緒に写真撮影をする姿が多数見受けられました。

また、同日2階ロビーにおいて開催された出発便の新機材就航式典には、台北駐福岡経済文化弁事処・曾処長をはじめ、九州運輸局、福岡県、福岡市、当機構等行政関係機関が参加し、最新鋭機の就航を祝いました。

今回の就航で飛行機の座席は252席から309席に拡大しており、今後の台湾から九州への入国者数の一層の増加が期待されます。



○ 中国・天津市教育関係者等を招請（12月8日～12日：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分）

中国の四大直轄市の一つである天津市から、小中学校の副校長を中心に教育関係者等を招請し、九州の教育関係施設及び観光地の視察を行いました。一行は福岡、佐賀、長崎、熊本、大分の5県を巡り、地元の小学校や平和教育及び産業観光関連施設等を視察したほか、日中の絆が感じられる長崎歴史文化博物館で開催中の「孫文と梅屋庄吉展」及び荒尾市の「宮崎兄弟資料館」を訪れました。

東日本大震災の影響で停滞していた中国の教育旅行市場では、九州への旅行で実績をあげている天津市をはじめ、各地で回復の兆しが見られます。九州が教育旅行の主要な目的地として評価を受けるよう取り組んでいきます。



○ 「西日本広域観光ルート開発 旅行会社ファミトリップ」を実施（12月12日～17日：福岡、長崎）

関西経済連合会を中心に、西日本の広域経済団体及び観光団体によって構成される「西日本広域観光ルート検討会」の事業として、中国の有力旅行会社による西日本広域観光ルート（九州～中国～四国～関西）のファミトリップを実施しました。

九州には上海市・江蘇省の旅行会社から8名が訪れて、2泊3日（12月12日～14日）の日程で長崎県壱岐市、福岡市、北九州市を視察しました。特に、壱岐は中国の旅行会社の招請は初めての試みであるため、関係者の皆様との意見交換会を開催し、壱岐の観光素材や商品造成の可能性等について有意義な意見交換を行うことができました。

今回は、関西～関東のゴールデンルートに対抗する西日本ルート開発のための調査として位置づけており、同ルートは一定の需要が見込まれるため、今後も九州外の各地域と連携した誘客に努めていきます。



○ タイ・テレビ局を招請（12月17日～23日：福岡、長崎、熊本、大分）

タイの人気テレビ番組「サムットコージョン」の取材班8名を招請し、各地の体験型観光施設、食、温泉を中心に取材が行われました。同テレビ局は、今回の取材をもとに番組を制作し、2012年2月より4週にわたって放送します。

九州の観光地の選定、番組構成については、タイ人の興味のある「食べる」、「買う」に着目し、テレビ局のスタッフと密に連絡を取り合いました。取材により、内容の濃い視聴率の高い番組になることが期待され、九州の認知度向上



と今後の誘客に高い効果が見込まれます。

○ 台湾・テレビ局(民視)を招請 (1月8日～16日:福岡、熊本、宮崎、鹿児島)

「GO GO J a p a n」などの日本旅行番組の制作・放映に実績がある台湾のテレビ局(民視)が個人旅行向けに新たに制作する「TOUCH J A P A N」の取材のため、スタッフ8人を招請し、飫肥、青島、指宿、桜島、熊本城、阿蘇、田主丸、門司港などでの撮影を行いました。

番組の放映は2月18日から4週に分けて行われ、レポーター役の女性タレント2人(鍾欣怡さん・Albeeさん)が、各県から提供いただいた視聴者プレゼント用の景品を含め、九州の魅力を楽しく紹介します。

プロデューサーの許克中さんは、「九州の真・善・美を台湾の視聴者に伝えるよう全力を尽くす」と語っており、放映が今年3月の台北・鹿児島線の新規就航、台北・福岡線の増便と放映の時期となることもあり、台湾の個人旅行者の九州への注目度が一層高まることが期待されます。



○ 香港・テレビ番組「ジャパナビ」を招請 (1月8日～14日:福岡、熊本、鹿児島)

地上波再放送を含む週3回の放送枠を持つ、香港の日本旅行番組「J P T I M E T V・日語大放送(通称:ジャパナビ)」による九州新幹線利用を中心とする魅力的な九州の旅の取材のため、JR九州及び熊本県観光連盟、鹿児島県観光連盟と連携し、スタッフ5人を招請しました。

取材は「あそぼーい!」「指宿のたまたま箱」などの観光列車をはじめ、熊本城、阿蘇、人吉、霧島、鹿児島、桜島、指宿、JR博多シティなどで行われ、1月29日から毎週日曜日、11回に分けて放送されることになっています。



○ 九州オルレを最終視察 (1月15日～19日:佐賀、熊本、大分、鹿児島)

九州オルレは、九州のもつ雄大な自然と温泉、長い歳月を経て培われた文化と歴史を五感で楽しんでいただく道のことであり、このたび、社団法人九州オルレの理事長が九州オルレ第1弾コースを視察し、コースの最終チェックを行っていただきました。

九州オルレを通じて、韓国市場で人気のあるトレッキング層の九州への誘客が期待されます。



○ 中国・九州情報誌「南国風」を招請 (1月24日～27日:福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎)

中国で九州の情報を専門に掲載している情報誌「南国風」のスタッフを招請し、九州各地で取材が行われました。

今回は「九州の郷土料理・麺料理」がテーマであることから、もつ鍋・神埼そうめん・長崎ちゃんぽん・地鶏・ふぐ料理など、各地の特色ある郷土料理を取り上げており、「食」を通じた九州の旅行意欲をさらに高めることが期待されます。



○ 韓国・地方都市旅行会社等を招請（1月30日～2月3日：佐賀、熊本、大分、鹿児島）

韓国の大都市以外から九州に誘客するため、蔚山やテグ等の地方都市の旅行会社、メディア関係者等を対象にファミトリップを実施しました。韓国の地方都市への九州アピールとともに、九州オルレについては第一弾予定コースを視察していただき、今後の九州観光の新たな旅行商品の造成、九州への誘客につながることを期待されます。

○ 中国・春秋航空就航に伴いメディア・旅行会社を招請（2月1日～4日、8日～11日：九州各地）

今年2月の春秋航空の佐賀・上海間就航に伴い、同便を利用した九州旅行を促進するため、佐賀県観光連盟等と共同で中国からメディア・旅行会社を招請し、九州視察を実施しました。視察先は、九州旅行商品の主力と見込まれる北部九州を巡るものであり、熊本・阿蘇、長崎・グラバー園、佐賀県内の酒蔵等を訪問しました。このたびの就航によって中国から九州へのアクセスがより便利になったことから、旅行商品の販売等を通じて、九州を訪れる中国人観光客が増加することが期待されます。

○ 香港・Weekend weekly 誌付録に広告出稿（2月6日：香港）

「新假期 Weekend Weekly」は、香港の旅行者に大きな影響力を持つ2大旅行雑誌の一つであり、2月6日発行の別冊付録「Travel Preview 2012」で九州の広告を出稿しました。

広告は、九州各県から提供していただいた、春先の「食」と「花」をテーマとするトピックスを4ページで紹介する内容としました。



○ 中国・九州情報誌「南国風」を招請（2月7日～10日：九州各地）

中国で九州の情報を専門に掲載している情報誌「南国風」の記者、カメラマンを招請し、「レールパスで巡る北部九州の旅」をテーマに取材を行いました。北九州の門司港エリアや大分の別府・由布院等で個人観光客に訴えるディープな素材の取材のほか、九州の代表的な観光列車「ゆふいんの森」に乗車し、列車の旅の楽しさを体感していただきました。今回の取材内容は2月発行の第4号に掲載されました。



○ インドネシア「ジャバントラベルフェスタ」に出展（2月8日：ジャカルタ）

財団法人自治体国際化協会（CLAIR）シンガポール事務所の主催、日本政府観光局（JNTO）シンガポール事務所の協力により開催された「ジャバントラベルフェスタ」に出展し、九州観光のプレゼンテーション及び現地旅行会社等との商談を行いました。約80人の現地旅行業関係者の参加があり、参加者アンケートでは、九州は、北海道とともに、プロモーションをしていきたい destinations として、1位になりました。



○ タイ「バンコクシスターシティウィーク」に出展（2月9日～12日：バンコク）

バンコクの中心部の公園で開催された「バンコクシスターシティウィーク」に出展した福岡県のブースの一部を活用して、各県パンフレットを配布し九州観光PRを実施しました。

日本に関心があるバンコク市民数万人の来場があり、同市において2月23日～26日に開催された「TITF2012及び商談会」につながる効果的な情報発信を行うことができました。



○ 台湾・香港からのインセンティブツアーを歓迎（2月19日～27日：福岡、北九州、別府）

台湾の裕隆日産汽車のインセンティブツアー参加者550名が2月19日以降3班に分かれて4泊5日の行程で福岡・北九州・別府、また、香港の恒生銀行のツアー参加者58名が2月24日から3泊4日で福岡・別府を訪問しました。裕隆日産汽車一行福岡入りの2月21日は福岡県と、恒生銀行一行が福岡入りした2月24日には福岡県、福岡県観光連盟とともに、福岡空港において横断幕を掲げて一行をお迎えしました。



○ 「九州オルレ」コース発表会・コース視察で韓国関係者を招請

（2月28日～3月3日：佐賀、熊本、大分、鹿児島）

韓国で大人気のハイキング「済州オルレ」と提携して立ち上げた「九州オルレ」のコース発表会・コース視察に、済州オルレ及び韓国メディアの関係者を招請し、九州の新しい観光素材としての「九州オルレ」をアピールしました。

発表会では、済州オルレ理事長による講演を行い、在福岡大韓民国総領事館、韓国観光公社、JNTOソウル事務所をはじめ、関係者が多数参加されました。

コース視察では、韓国メディアによる各コースのテーマ、特徴などについて取材があり、韓国国内への効果的な情報発信を行うことができました。今後も「九州オルレ」ブランドのPR強化、関係者との連携促進により、九州への観光客誘致を行います。



○ 台湾・中華航空キーエージェント等の南九州招請を支援（3月3日～7日：宮崎、鹿児島）

今年3月25日に中華航空の台北鹿児島線（週3便）が新規就航し、台北宮崎線（週2便）と合わせて南九州への路線が週5便に増便となり、その利用促進と南九州が誇る豊富な自然や文化、食、温泉等を新たにPRするため、宮崎・鹿児島県が中華航空の協力を得て、同航空キーエージェントの旅行会社やメディアなど14名を招請するファミトリップを実施しました。

今回の招請で機構は、バス借上代、通訳ガイド費用負担で支援を行いました。



○ 中国・長崎上海航路関係旅行会社等を招請（3月3日～8日：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分）

今年2月末に営業運航を始めた長崎上海航路の利用促進のため、長崎県・佐賀県・大分県及びハウステンボスグループと協力して関係する中国の有力旅行会社やマスメディアの33名を招請し、同航路を利用

した旅行商品造成と中国での周知を働きかけました。

一行は同航路（オーシャンローズ号）を利用して長崎から入国し、佐賀、大分、熊本、長崎の順に各地の観光地を視察しました。外国人観光客の増加を図るうえで、交通アクセスの充実は非常に重要であることから、早期のうちに航路の認知度が向上し、利用客が増加することが望まれます。

○ 韓国語・英語版「九州教育旅行ネット」を開設（3月6日）

国内「九州教育旅行ネット」の多言語化を行い、韓国語・英語版「The Kyushu Educational Travel Net」を開設しました。このサイトは、海外の旅行会社及び教育関係者向けに、教育旅行に対応する施設の情報及び教育プログラム等を掲出しており、九州が教育旅行の適地であることを発信しています。 <http://kyoiku.welcomekyushu.jp/en/>

○ 台湾・保険会社インセンティブツアーを福岡空港で出迎え（3月7日～11日：福岡市）

台湾の保険会社「紐約人壽」のインセンティブツアー79名が3月7日に福岡空港に到着し4泊5日の行程で福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、熊本の各地を訪問しました。

福岡入りした初日は、九州運輸局と共に福岡空港国際ターミナルにおいて横断幕を掲げて一行を出迎えしました。ツアー参加者には大変喜ばれるとともに、横断幕とともに写真に収まる姿が次々に見られました。



○ シンガポール「九州観光説明会・商談会」「九州教育旅行セミナー」を開催

（3月9日～10日：シンガポール）

九州の魅力的な観光素材を紹介し、一般旅行及びインセンティブ旅行の誘客回復を図るため、「九州観光説明会・商談会」を開催しました。九州からは16団体20名、シンガポールの訪日取扱旅行会社及びマスコミ等から56社84名が参加し、九州向け商品造成の拡充が期待できる商談となりました。

また、同説明会・商談会の翌日は、シンガポールの教育関係者26校47名を対象に九州教育旅行セミナーを開催しました。「The Kyushu Educational Travel Net」の紹介、九州各県のプレゼンテーション、九州教育旅行体験者による講和等の実施により、九州は教育旅行の適地であることをPRし、九州向け教育旅行の再開を促しました。



○ 中国・陝西省教育関係者を招請（3月10日～15日：九州各地）

西安市を中心とした陝西省の小中学校長等教育関係者を招請し、九州の教育関係施設及び観光地の視察を行いました。一行は小学校の平和教育、産業観光関連施設とともに、日中の絆が感じられる長崎歴史文化博物館で開催中の「孫文と梅屋庄吉展」を視察しました。このたびの招請は、九州を中国の教育旅行の主要な目的地としてもらうために実施しており、今後も中国から評価が得られるよう取り組んでいきます。

○ 台湾・中華航空「ダイナスティパッケージ」販売担当者等を招請

(3月16日～21日:福岡、佐賀、長崎、熊本、大分)

今年3月1日に中華航空の台北福岡線が毎日2往復に増便し送客能力が拡充される機会を捉え、航空券と宿泊をパッケージにしたFIT向け商品「ダイナスティパッケージ」の販売担当者及びメディア等関係者の15名を九州へ招請しました。一行は、温泉・自然・食など九州の魅力を現地体験するとともに、ホテル視察等を行いました。

今回の招請による販売担当者等とのコミュニケーションを通じて、旅行商品のラインナップの充実とともに、台湾からの顧客に九州の魅力をより一層正しく理解してもらえることが期待されます。



○ 台湾・ブログサイト「歩歩日本」を招請 (3月20日～27日:九州各地)

中華航空の台北福岡線の送客能力が拡充される機会を捉え、日本在住の台湾人による繁体字ブログサイトを編集・監修する台湾人人気作家・張維中氏を九州へ招請し、「食」「自然」「温泉」「楽しい列車の旅」など多彩な九州の観光素材の取材を行いました。4月上旬から週2回、九州情報が掲載される予定であり、「一人の台湾人として体験を通して感じたことを、作家の筆力で台湾人に伝える」というコンセプトにより、新たな観点からの九州の魅力を効果的な発信が期待されます。



○ 中国・ファッション誌「伊周(Femina)」等を招請 (3月23日～26日:九州各地)

中国の人気ファッション誌「伊周(Femina)」と九州専門情報誌「南国風」の記者3名とモデル3名を招請し、九州のファッションやショッピングを中心に取材を行いました。

一行は、ハウステンボス、鳥栖プレミアムアウトレット、福岡市内の商業施設等を入念に取材した後、福岡で開催された「福岡アジアコレクション(FACo)」に参加し、ショーの撮影や人気モデルへのインタビューを実施しました。今回招請した「伊周」は20代の女性が主な読者層であるため、若い女性の間で九州の知名度向上が進むことが期待されます。



○ 中国「南方週末」取材を支援 (3月23日～4月2日:九州各地)

中国広東省の有力メディア「南方週末」から九州取材で協力依頼があったため、取材先の手配等を行い、円滑な取材ができるように支援しました。

今回の取材は、歴史・文化などの側面を重点的に取り上げる内容であるため、各県知事や各地の要人へのインタビューをはじめ、有田・平戸・高千穂など独特の歴史・文化を有する観光地で撮影を行いました。観光はもとより様々な切り口から九州を紹介していただくことで、中国における九州への理解がより深まるものと期待されます。



(11) 関係機関と連携した定期路線等の開発・増便やクルーズ船の就航促進

○ 「ロイヤルカリビアンクルーズ事業説明会・歓迎会」を開催（9月5日：福岡市）

中国からのクルーズ航路を開設しているロイヤルカリビアンクルーズ社幹部等の出席のもと、2012年度の「ロイヤルカリビアンクルーズ事業説明会・歓迎会」を、九州運輸局との共催により開催しました。同社からは、来年から新たにアジアクルーズに投入する13万トン級大型客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」（定員3,838人）などについての説明があり、来年度は九州に20回程度寄港する計画が発表されました。



また、国内からは九州内外の行政及び旅行会社等関係者約70名の参加があり、来年の同社の運航計画等について活発な質疑応答が行われました。中国からの観光客誘致では、クルーズが非常に大きなウエイトを占めており、今後も市場の拡大が見込めるため、引き続き同社と良好な関係を維持し、中国からのクルーズ誘致を図っていきます。

○ シンガポール「クルーズ・ SHIPPING・アジア2011」に出展（11月16日～18日：シンガポール）

シンガポールで開催されたクルーズ専門の展示会「クルーズ・SHIPPING・アジア2011」に九州ブースを出展し、各国のクルーズ船社等に対し九州各地の港や観光地の魅力をPRしました。

今回の出展では、観光庁、日本の各出展者と連携してクルーズ業界のキーパーソンを招いてイベントを実施し、オールジャパンでのクルーズ船誘致にも注力しました。

九州への外国人観光客誘致では、クルーズ船は中国市場を中心に大きなウエイトを占める重要な旅行手段であるため、今後も、積極的に誘致に取り組んでいる九州各地の港及び観光関係者と連携しながらPR等を行っていきます。



(12) その他

○ 九州安心メッセージを発信

東日本大震災後の被災地復興、支援については、日本経済の活力維持・向上にとって重要であり、また、海外からの日本への訪日観光客の激減は大変憂慮すべき事態と考えております。

九州においても、日本復興に向けて、直接的な被害を受けていない現状について正確な情報発信が行うことが不可欠であることから、4月19日、九州では交通機関、宿泊・観光施設は通常どおりの営業が行われており大震災前と同様に九州の旅を楽しんでいただけることを伝える、九州安心メッセージ（右）を韓国語、中国語（繁体字、簡体字）、英語で作成しました。このメッセージは、当機構の各言語のホームページ上で公開するとともに、海外の関係機関・旅行会社等約200か所に発信します。

歓迎します！九州訪問
～震災以降の九州の状況について～

各位

春陽の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、過日発生しました東日本大震災につきましては、皆様方から多大なご支援やご声援をいただき、心よりお礼申し上げます。

被災された地域の皆様は、今後の復興に向けて懸命の努力をされておりますし、日本国民全員が日本の再建に力を合わせて取り組んでおります。

九州地域においては、大震災の被害地域から概ね1,000キロ以上離れており、交通機関やホテル・旅館、店舗、観光施設などすべての施設は大震災後も、これまでと同様に通常どおり営業しております。

我々の日々の暮らしも、変わることなく平常通りに営まれています。

このような状況でありますので、九州への訪問に関しては、どうぞ安心しておいでくださいようお願いいたします。

私たちが、心から皆様方を歓迎いたします。

そして、多くの皆様が日本を訪問して元気づけていただくことが、被災地復興に向けた活力の源となりますので、どうぞよろしく願っています。

2011年4月19日

九州観光推進機構
会長 石原進

※メッセージ（日本語）掲載アドレス

<http://www.welcomekyushu.jp/welcome/index.html>

※現在のより詳しい情報を確認したい方のために、文部科学省（現在の各地の放射線量）など政府関係機関の情報等をリンク掲載。

<http://www.welcomekyushu.jp/welcome/link.html>

○ 機構ホームページ「九州旅ネット」としてリニューアル

6月9日、当機構のホームページ（日本語国内版）を新たに「九州旅ネット」としてリニューアルしました。各種情報に直接アクセスできるようにショートカットを取り入れるなど、グローバルメニューを全面的に見直し、九州7県別のタブを新設し代表的な観光素材や旬の情報などを閲覧できるようにしました。また、九州観光の5つのテーマ「食、自然、温泉、人情、歴史・文化」や注目キーワードをトップ画面に配置し、より簡便に検索・閲覧していただけます。

さらに、利用者の皆様への最新情報提供や双方向コミュニケーションの強化のため、ホームページの主要コンテンツ内にこれらソーシャルメディア（Twitter、Facebook、mixi、はてなブックマーク）に対応したシェアボタンを設置し、情報の発信・共有を容易にしました。

今後も、九州7県や会員企業との協力・連携のもと、WEBチャネルを通じた観光情報の発信強化に努めます。 ※機構ホームページ「九州旅ネット」URL：<http://www.welcomekyushu.jp>

○ 海外メディアが九州安全等の情報を発信（5月～6月）

九州安全、観光のPR等を目的とする海外メディア招請・取材等により、2011年5月～6月にかけて海外メディアから九州の情報が以下のとおり発信されました。今後も各国メディアからの九州情報発信を踏まえたプロモーションを実施することにしています。

【韓国】 新聞・・・東亜日報など4紙で延べ10回、九州の安全PRと観光地情報を掲載
テレビ・・・SBSで3日間、九州の観光地情報等を放映

【中国】 ネット・・・新浪網など64媒体で延べ91回、上海市・北京市でのプロモーションを掲載
テレビ・・・深セン電視台で4日間、九州の観光地情報等を放映
新聞・・・淄博晩報で5日間、九州観光情報等を掲載

【台湾】 テレビ・・・延べ15チャンネルで九州の安全PR等を放映
新聞・・・アップルデイリー及び自由時報で九州の安全PRを掲載
旅行業界紙・旅奇および旅報TTN紙上で延べ7回、九州の安全PRと観光地情報を掲載
ネット・・・Yahoo Travel など3媒体で5日間、九州の観光地情報等を掲載

【香港】 新聞・・・明報など6媒体に延べ12日間、九州の観光地情報等を掲載
フリーペーパー・・・needs 香港で九州の安全PRを掲載

【タイ】 Travel Station チャンネル・・・延べ18日間、九州の安全PRと観光地情報を放映

【シンガポール】

- 新聞・・・Lian He Wan Bao 紙上で1回、九州の現状と観光地情報を掲載
- 旅行雑誌・・・U Weekly Magazine で3回、九州の観光地情報等を掲載
- ラジオ・・・Media Corp Radio で延べ7日間、九州の現状と観光地等を紹介

○ **海外メディアが九州観光情報を発信**（7月）

九州安全、観光のPR等を目的とする海外メディア招請・取材等により、2011年7月に海外メディアから九州の観光地情報が以下のとおり発信されました。

- 【台湾】雑誌・・・Taipei Walker 誌で九州の観光地情報を紹介
- ネット・・・Tripass で2回、九州の観光地情報を紹介
- 【香港】テレビ・・・TVBS「スポーツアワー」で3週にわたり九州の観光地情報を放映
- 新聞・・・Singtao Daily 紙で九州の観光地情報を紹介
- 雑誌・・・Weekend Weekly 誌で九州の観光地情報を紹介
- 【タイ】テレビ・・・Green Channel、Travel Station で延べ8日間、九州の観光地情報を放映

○ **海外メディアが九州観光情報を発信**（8月）

九州安全、観光のPR等を目的とする海外メディア招請・取材等により、2011年8月に海外メディアから九州の観光地情報が以下のとおり発信されました。

- 【韓国】テレビ・・・KBSなど5社で「済州オルレー九州オルレ間業務提携協定式」を報道
- 新聞・・・朝鮮日報など15紙で「済州オルレー九州オルレ間業務提携協定式」を報道
- 【中国】テレビ・・・大連電視台生活チャンネルで九州の観光地情報を約25分間紹介
- 【香港】新聞・・・香港経済日報で2日間にわたり、九州の観光地情報を紹介
- 雑誌・・・香港 walker で九州の観光地情報を紹介
- 【タイ】テレビ・・・「Life on Green」チャンネルなどで延べ6日間、九州の観光地情報を紹介

以上